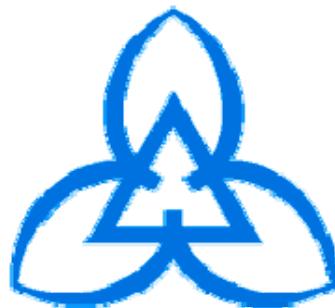


平成 30 年度

# 大山崎町教育委員会事業報告書

(平成 29 年度対象)



平成 30 年 8 月

大山崎町教育委員会

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成29年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、作成したものであります。

大山崎町教育委員会は、この点検・評価を踏まえ、今日的な教育課題や要請に対応した教育行政の推進に努力していきます。

大山崎町教育委員会

教育委員会名簿

職名	氏名
教育長	中條 郁
教育長職務代理	南 顕 融
委員	並川 康子
委員	榎本 和彦
委員	岡 弘子

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 1 教育委員会の活動状況

1. 会議の開催状況

No.	会議名	開催日	議事（審議）案件
1	4月定例会	平成29年 4月26日	諸報告について (第26号議案)大山崎町国際交流員任用規則の制定について (第27号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第28号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第29号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について
2	5月定例会	平成29年 5月23日	諸報告について
3	6月定例会	平成29年 6月23日	諸報告について (第30号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について
4	7月定例会	平成29年 7月26日	諸報告について
5	8月定例会	平成29年 8月24日	諸報告について (第31号議案)平成30年度から小学校において使用する教科用図書の採択について
6	9月定例会	平成29年 9月27日	諸報告について
7	10月定例会	平成29年10月30日	諸報告について (第32号議案)大山崎町議会の議決を経るべき議案(大山崎町体育館設置条例の一部改正について)について (第33号議案)大山崎町いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱について (第34号議案)大山崎町いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱について (第35号議案)大山崎町いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱について (第36号議案)大山崎町いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱について (第37号議案)大山崎町いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱について
8	11月定例会	平成29年11月30日	諸報告について (第38号議案)大山崎町議会の議決を経るべき議案(大山崎町体育館改修工事変更請負契約について)について (第39号議案)大山崎町議会の議決を経るべき議案(大山崎町議会の議決を経るべき議案(大山崎町体育館改修工事変更請負契約について)について)

			き議案(第二大山崎小学校プール改築工事請負契約について)について
9	12月臨時会	平成29年12月22日	小学校における問題事象について
10	12月定例会	平成29年12月27日	諸報告について
11	1月定例会	平成30年 1月30日	諸報告について (第1号議案)大山崎町就学援助規則の一部改正について
12	2月定例会	平成30年 2月28日	諸報告について (第2号議案)平成30年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について (第3号議案)平成30年度中学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について
13	2月臨時会	平成30年 2月28日	(第4号議案)教職員管理職の人事異動について
14	3月臨時会	平成30年 3月20日	(第5号議案)大山崎町教育委員会事務局職員の任免について

15	3月定例会	平成30年 3月27日	<p>諸報告について</p> <p>(第6号議案) 平成30年度学校・社会教育の指導の重点を定めることについて</p> <p>(第7号議案) 大山崎町「子どもの読書活動推進計画」を定めることについて</p> <p>(第8号議案) 平成30年度中学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について</p> <p>(第9号議案) 大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第10号議案) 大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第11号議案) 大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第12号議案) 大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第13号議案) 大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第14号議案) 大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第15号議案) 大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第16号議案) 大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第17号議案) 大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第18号議案) 大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第19号議案) 大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第20号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第21号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第22号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第23号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第24号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第25号議案) 大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第26号議案) 大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について</p>
----	-------	-------------	--

		<p>(第27号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第28号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第29号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p> <p>(第30号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p> <p>(第31号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p>
--	--	--

## 2. その他の会議や活動など

### (1) 総合教育会議（町長が招集し、会議の構成員として教育長及び教育委員が出席）

会議名	開催日	協議・調整事項
1 第1回	平成29年11月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する重要施策の方向性（平成30年度予算）について</li> <li>・その他</li> </ul>
2 第2回	平成29年12月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における問題事象について</li> <li>・その他</li> </ul>

### (2) 教育委員の主な活動

教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものと除く）

- ・大山崎町立小中学校入学式・卒業証書授与式
- ・大山崎町立小中学校運動会・体育大会
- ・大山崎町立小中学校授業参観（研究発表会等）

- ・学校計画訪問（授業参観、懇談等）
- ・大山崎町民体育祭
- ・大山崎町自治記念式
- ・大山崎町文化のつどい
- ・乙訓地方小学生駅伝大会
- ・大山崎町成人式
- ・大山崎中学校吹奏楽部定期演奏会 ほか

### （3）委員研修

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| ① 乙訓教育委員会連合会研修会           | 平成 29 年 5 月 8 日（月） |
| ② 京都府市町村教育委員会連合会委員研修会     | 5 月 26 日（金）        |
| ③ 近畿市町村教育委員研修大会（和歌山県紀の川市） | 10 月 24 日（火）       |
| ④ 京都府内市町教育委員会研修会（京都市）     | 11 月 2 日（木）        |
| ⑤ 乙訓教育委員会連合会研修会（京都市）      | 平成 30 年 2 月 8 日（木） |

## 2 教育行政事務に係る点検・評価

(1) 点検・評価の対象及び方法

平成29年度「指導の重点」に位置付けられ、教育委員会が所管又は教育委員会が関わる項目について、外部評価対象事業とし、委員の方から事業評価を頂くとともに様々な意見・助言等をいただきました。

(2) 評価委員

氏名	役職等
浅野 輝男	人権擁護委員
田中 久美子	京都府教育委員会教師力向上アドバイザー 元校長

### 3 事業評価シート

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標1】質の高い学力の育成</b> 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。		
	事務事業名	学力向上推進事業Ⅰ	担当部署
事業実績	学習意欲の喚起と基礎的・基本的な学力の定着及び向上に向け、児童生徒の実情に合わせた事業として、次のような取組を行った。 ① 子どものための京都式少人数教育の実施 <大山崎小学校> 第3・5・6学年で少人数学級を実施 第4学年で少人数授業を実施 <第二大山崎小学校> 第3・4学年で少人数授業を実施 <大山崎中学校> 第1学年の数学科・英語科、第2学年の英語科でチームティーチングを実施 英語科において小中連携加配を配置し、小学校第6学年でチームティーチングを実施 ② 学力向上に向けた学校独自の取組 <大山崎小学校> ・山っ子検定の実施：国語(漢字)・算数(計算)における学年での達成目標を定め、学期毎に相当の検定試験問題に挑戦させた。結果によっては補習を行い、全員合格を目標に取り組んだ。 ・補習がんばり日：全学年、週1日を設定した。 ・マスター ウィークチェック：家庭学習や生活習慣についてのチェック週間を設けて取り組んだ。 ・「小学生個別補充学習『ジュニアわくわくスタディ』」事業として、第4・5学年、各約20名の児童を対象に国語・算数の補習を実施した。 【実施日】7月21日(金)～25日(火)の3日間 <第二大山崎小学校> ・平成28・29年度「学力向上システム開発校」の指定を受け、研究主題を「子どもたちの『学びたい』を育てる～Activityを活用した授業の創造～」と設定し、教師の授業改善に取り組み、児童の学力向上を図った。1月30日(火)に研究発表会を実施し、授業公開や全体会等でこれまでの取組の成果を発表した。 ・朝学習では、漢字や計算の繰り返し反復学習により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。 ・学期毎のまとめテスト：指導内容の定着度を検証し、指導方法の改善に取り組んだ。 ・「小学生個別補充学習『ジュニアわくわくスタディ』」事業として、第4・		

	<p>5学年、各約10名の児童を対象に国語・算数の補習を実施した。</p> <p>【実施日】6月1日（木）～7月24日（月）の6日間</p> <p>＜大山崎中学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府乙訓教育局「OASIS校」の指定を受け、研究主題を「対話と繋がりをもとにした、生徒の主体的な学びを育む授業づくり～学びを深め合う学級集団づくりの実践をもとに～」と設定し、研究に取り組んだ。校内での研修を通して、「コミュニケーション能力の向上」、「主体的な学び」を意識した授業改善に取り組んだ。</li> <li>・「中2学力アップ集中講座」事業として、第2学年28名の生徒を対象に、数学、英語の学力アップを目指した学習を実施した。</li> </ul> <p>【実施日】7月26日（水）～28日（金）、8月21日（月）、22日（火）、11月18日（土）の6日間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中1振り返り集中学習『ふりスタ』」事業として、第1学年40名の生徒を対象に、数学・英語の補習学習を実施した。</li> </ul> <p>【実施日】6月26日（月）、27日（火）、7月26日（水）～28日（金）、8月21日（月）、22日（火）の7日間</p> <p>② 英語教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英検Jr.の実施：小学校5・6年生を対象とし、町中央公民館を会場として2回実施した。検定料は町からの全額補助があり、1人1回分を無料として実施。参加児童は延べ78名。</li> </ul> <p>【実施日】9月9日（土）、2月3日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定の実施：一次試験について、中学校を準会場として英語検定を年3回実施した。検定費用として一人1回1,000円、町からの補助。参加生徒は延べ214名。</li> </ul> <p>【実施日】6月2日（金）、10月6日（金）、1月19日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習発表会：小学校5・6年生、中学生を対象に英語学習の成果についての発表会を実施した。大阪成蹊大学教育学部赤沢真世准教授を講師として招へいし、指導助言をいただいた。発表児童生徒は65名。当日参加者は約150名。</li> </ul> <p>【実施日】11月11日（土）</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級及び少人数授業により、個に応じた適切できめ細かい学習指導や生徒指導が可能になり、落ち着いて学習に取り組む姿勢が作られ、児童生徒の学習への関心を高めることができた。</li> <li>・英語科の小中連携加配の効用として、小学校の外国語活動の充実と中学校での学習規律をはじめとする学校生活への円滑な接続となっている。</li> <li>・小学校での山っ子検定や学期ごとのまとめテストでは、各児童の学習の定着度合いが把握でき、指導に役立つとともに児童の学習への意欲向上につながった。</li> <li>・各校の重点研究の取組を通して、授業改善、指導力向上を図ることができた。</li> <li>・中2学力アップ講座は、数学、英語の補充学習を実施し、個々の生徒の学力アップにつながった。</li> <li>・中1振り返り集中講座「ふりスタ」や、小学生個別補充学習「ジュニアわくわくスタディ」事業では、基礎的・基本的な内容を中心に学習内容を厳選し、</li> </ul>

	<p>徹底した個別指導を行っており、その学習内容の定着と学習に対する意欲や興味・関心を高めることができたのではないかと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から小学生も対象として取り組んだ英語検定の実施は、多くの児童生徒の学習意欲の向上につながっている。特に、英検の検定費補助は、受験人数増加への効果が大きかった。</li> </ul>
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>より効果的に少人数教育を進めるため、小中学校の連携を図りながら、各種の学力診断テストなどを活用し、学力の向上の視点で分析及び検証しながらその在り方を研究する必要がある。</li> <li>新学習指導要領の周知、指導計画の見直し等の研修が必要である。今後の国の動きに注視する必要がある。</li> <li>平成30年度より移行措置、32年度より本格実施される小学校5・6年生の外国語科、3・4年生の外国語活動が円滑に進められるための指導体制の充実及び研修が必要である。</li> <li>学力課題の大きい学年もあり、小中連携を生かし、課題把握及び学習指導・生徒指導の両面で計画的・組織的な指導が必要である。</li> </ul>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力向上」を課題と捉え、向上への各取組が行われていることは評価できる。各校とも児童生徒の実態に合わせて、学習意欲喚起・学力定着向上のために様々に取り組まれて効果を挙げている。引き続き、児童生徒に、「主体的・対話的で深い学び」が実現し、今後の社会に求められる力が付けられるような授業改善の努力をしてほしい。</li> <li>学力向上において、学力テスト等は一定の目安にはなり「平均」だけにとらわれず、個々の児童生徒の状況を捉えることが大切になるが、その意味で少人数学級、少人数授業、チーム・ティーチング、振り返り集中学習等、個に応じた指導は、個々の児童生徒の学力状況に応じた指導ができ、学力向上に大変有効であり、今後も継続して取り組まれたい。</li> <li>英語検定補助は素晴らしい。参加生徒の増加は学校側も積極的に受け止めた結果だと予想する。グローバル化の時代、国を挙げて国際理解や英語への関心・意欲・技能の向上が言われている。小学5・6年生の外国語の教科化を見据えて、小学生にも拡充されたのは望ましいことである。ただ、英語が学外でそれを習う児童生徒だけのものとならないよう、より一層全ての児童生徒の言葉への関心・英語力向上をお願いしたい。</li> <li>人前で自分の思いを発言・発表することが苦手な児童生徒にとって英語学習発表会は、とても良い機会になっているものと思われる。英語力向上に有効な機会となっていることもあり、今後も継続して実施してほしい。</li> <li>英語学習発表会も英語力向上に有効な機会となっていると思われるが練習等に注がれる表に出ない指導時間もあることは気に止めておきたい。</li> <li>新学習指導要領は小中学校、全ての教職員で研修し、平成30年度移行期から教育課程上も遺漏の無いよう取り組まれることを望む。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標1】質の高い学力の育成</b>        「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。</p>		
事務事業名	学力向上推進事業Ⅱ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 標準授業時数の確保        町内小・中学校の全学年で、標準授業時数を上回るとともに、教育課程外の行事も計画どおり実施できた。</p> <p>② 学力向上に向けた教科補習の取組        教育課程外の取組として、小学校では、毎週2~3日間の補習、毎日の朝学習を実施した。        中学校では、毎日の朝学習、定期テスト前の補習、夏季休業中の補習、中1振り返り集中講座、中2学力アップ事業、進路補習の補習学習を実施した。</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準授業時数の確保は、小・中学校とも確保できた。</li> <li>・長期休業中を活用した補習学習、土曜日活用、行事の精選など、教育課程外時間での学力向上に向けた取組ができている。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時数の確保は、学力の保障や向上、進路保障において必要要件である。そのため、授業時数の確保を最優先し、他の行事を効果的に設定する必要がある。</li> <li>・学校が楽しく心豊かな児童生徒の育成を目指した事業を、土曜日活用を含めてどう編成するかが課題である。</li> <li>・地域の教育力（社会人講師、学校支援ボランティア等）を活用した学力向上に向けて教育課程内で取り組む方法を検討する必要がある。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準授業時数を確保することは重要である。特に30年度からの学習指導要領 移行期にあっては注意が必要である。</li> <li>・教育課題は年々膨らむ様相がある。引き続き、ねらいや付けたい力を明確にし重要度を勘案しながら思い切った精選や整理・工夫しての取組に期待したい。</li> <li>・児童生徒に「付けたい力」と特に土曜活用等、教職員の「働き方改革」との兼ね合いを考慮できることが望ましい。</li> <li>・教育課程外の学習会は教職員に物理的時間や時間には表れない負担が予想される。児童生徒への学習効果が検証されているのであれば、学習会が継続できる具体的な支援策を望む。</li> <li>・地域や家庭の教育力の活用、放課後・土曜日の活用等による心豊かな児童生徒の育成に努められたい。その際、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の観点で地域社会と共に児童生徒を育めるよう働きかける必要がある。そのため、地域学校協働本部（コミュニティ・スクール）の検討を望む。</li> </ul>		

## 事務事業番号&lt;3&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標4】健やかな体の育成と体力の向上</b> 生き生きと逞しく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣をはじめ、健康的な生活を実践する態度を養う。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅠ	担当部署	学校教育課
事業実績	◇小学校陸上交歓記録会（第6学年対象） 9月29日（金） 大山崎小学校運動場・体育館 【全員種目】50m走 【エントリー種目A】走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ 【エントリー種目B】100m走、50mハードル 【選択種目】学級別リレー		
成 果	・児童は、各競技を通して、自分の体力・運動能力を把握できるとともに、合同開催により意欲を持って取り組むことができた。各競技で全力を出し切り、両校児童の交流を深めることができた。		
課題認識	・本記録会は、体力や運動能力の向上を図る契機であり、児童にとっては自己の全力を出しきる楽しさや喜びを味わう大切な機会である。 ・本記録会が、両校の児童の体力づくりや運動能力の向上に結び付いた取組になることが更に期待される。		
評価委員の所見	・両小学校の児童が「陸上競技」を通じて交流を深める良い機会となっている。 ・選択種目の学級別リレーは児童に、より参加意識が生まれたのではないか。 ・中学校での開催は児童にとって貴重な体験であり、スケジュールを合わせて是非実施され、中学校の陸上部のリレーを見せる機会等にしてはどうか。		

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標1】質の高い学力の育成</b>          「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p><b>【重点目標3】規範意識の醸成や他者を思いやる心など豊かな人間性の育成</b>          学校や社会のきまり・ルールを守り、社会の一員としての自覚を深めるとともに、よりよく生きようとする力の源泉となる豊かな人間性をはぐくむ。</p>		
事務事業名	特色ある学校づくりⅡ	担当部署	学校教育課
事業実績			<p>① 「KYO発見 仕事・文化体験活動」推進事業</p> <p>＜大山崎小学校 4年生＞          実施日：5月～12月          実施内容：大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫</p> <p>＜第二大山崎小学校 4年生＞          実施日：1月25日（木）          実施内容：保育所、幼稚園、消防署、福祉施設、商店等の事業所にて、仕事についての学習や体験活動</p> <p>実施日：2月20日（火）          実施内容：生け花体験</p> <p>＜大山崎中学校 2年生＞※キャリア教育として「職場体験活動」を実施          実施日：11月8日（水）、9日（木）          実施内容：保育所、消防署、公共施設、福祉施設、美術館、商店等の事業所21カ所にて、仕事についての学習や体験活動</p> <p>② フェンシング体験</p> <p>実施日：6月7日（水） 午前：大山崎小学校、午後：第二大山崎小学校          対象児童：第3学年          実施内容・基本的なルールや用具の名前や使い方          ・マスクやユニフォームを着用しての試合形式のゲーム          ・元オリンピック選手による模範試合の披露</p> <p>※指導は京都フェンシング協会及び乙訓高等学校の池端花奈恵教諭に依頼した。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学推進事業</p> <p>＜大山崎小学校＞          9月16日（土） 学校探検「学校ってどんなとこ？」          教室の見学や授業参観等          2月28日（水）、3月6日（火）          体験入学「小学校をたんけんしよう」          授業参観、学習体験、交流あそびなど</p> <p>＜第二大山崎小学校＞          10月26日（木） 「小学校の運動会！よーいどん！」 30m走の参加</p>

	<p>11月28日（火）、12月6日（水）  「1年生との交流会」  生活科の学習体験、1年生との交流など  2月26日（月）「1年生との交流会」  学校案内と交流遊び</p>
成 索	<p>① 「KYO発見 仕事・文化体験活動」は、キャリア教育の一環として取り組み、勤労体験することで、その楽しさや厳しさを知り、地域社会との交流や地域の産業への関わりを深めるとともに、歴史的に本町と関わりの深いえごまの栽培・搾油等を通じて歴史・文化的学習の機会を提供することができた。  中学校では、体験を通して望ましい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、地域社会に貢献する意欲も高められた。</p> <p>② フェンシング体験事業は毎年小学校第3学年において実施しており、児童にとってフェンシング競技への関心を高める貴重な機会となっている。こうした取組もあり、大山崎中学校のフェンシング部では、専門的な指導力のある顧問の指導の下、部員数も増加し活発な活動と優秀な成績を残している。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学推進事業では、入学前の子ども達が、小学校の教室で授業体験をするなど、小学校の学習活動に参加し、小学校入学への不安の解消を図るとともに、学習に対する興味を持ち、新たに始まる学校生活への期待を高めることができた。また、小学校としては、入学前の幼児の様子を見ることができた。</p>
課題認識	<p>① 「KYO発見 仕事・文化体験活動」を通して、得たものや学んだことを生かし、社会の一員としての規範意識の育成が図られることを期待している。</p> <p>② 児童はフェンシング体験授業において、フェンシング競技への楽しさや面白さを体験することができ、今後、フェンシング競技への参加児童生徒の拡大が期待される。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学を通して、入学後の生活習慣や学習習慣の変化への対応など、保育所・幼稚園などと小学校との円滑な接続について期待される。</p>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫は、大山崎小学校だけではなく、第二大山崎小学校においても実施されることを望む。</li> <li>・各校ともキャリア教育としても地域学習としても意味ある取組である。ただ、発達段階が違うとはいえ、小学校と中学校の取組に重複がないよう工夫されたい。</li> <li>・両校第3学年で実施されているフェンシング体験事業は、他市町では見られない事業であるが、近年メジャーになりつつある同競技を体験学習することは、オリンピック・パラリンピックへの関心にも繋がる良い機会であり、今後も継続されることを期待する。</li> <li>・「もうすぐ1年生体験入学」は、入学前児童にとって小学校の様子を知ることのできる機会であり、指導者同士の交流も含め保幼小連携も期待される。その際、幼児教育として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」「学習指導要領」等の相互学習も有効ではないか。</li> <li>・入学前の幼児と共に家庭教育として、その保護者への啓発・ケア等にも配慮できる取組が望ましい。</li> </ul>



## 事務事業番号&lt;5&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進</b> 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅢ	担当部署	学校教育課
		◇土曜日を活用した授業・行事等の実施 ① 土曜活用・・・学期に1回実施、午前中授業で振替休日はなし	
		大山崎小学校	第二大山崎小学校
		5月13日 教科授業（参観） 学校説明会	5月13日 授業参観 学校説明会
		6月3日 教科授業 学級懇談会・学校紹介 進路学習会	
		9月16日 教科授業（参観）	12月16日 授業参観 ありがとう会
		11月18日 朗読劇鑑賞会 情報モラル学習会	
		1月20日 教科授業（参観） 大縄大会 PTA文化事業	3月10日 部活動公開
		9月9日、2月3日 英検Jr学校版	—
		11月11日 英語発表会	
		② 土曜授業・・・振替休日あり	
		大山崎小学校	第二大山崎小学校
		6月10日 学校行事 (修学旅行 6年生)	
		10月21日（雨天のため延期） 運動会	
		11月25日 教科授業（参観）・乙訓小学生駅伝	
		③ 教育課程外としての土曜日を活用 <小学校> 学年親子交流会（両小学校とも全学年） <中学校> 部活動、学校クリーンデー、部活動参観・懇談、英語検定	
成 果	・①の土曜日を活用した授業は、授業時間数の確保においても有効であり、学校の特色ある行事等の編成に余裕が生まれた。 ・土曜日に学校公開の取組を行うことで、保護者からも好評で参加数が多くあつた。		

課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ団体や高等学校の説明会など、各種団体の催しと重なり、児童生徒の出席を確保するための日程調整が難しい。</li> <li>・教職員の勤務環境を整える必要がある。</li> </ul>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体との日程調整にはご苦労されているところであるが、いろいろな行事を実施していくためには調整は必須と思われる。</li> <li>・土曜参観は、保護者が児童生徒の学校生活の様子を知る上で有効であり、是非とも継続されたい。ただ、教職員の負担が大きいことも考慮し、振替休日の実施等、教職員への負担を極力少なくされることを期待する。</li> <li>・児童生徒・保護者・教職員等の負担が少ない取り組み方を模索しながら、児童生徒への成果を期待したい。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標1】質の高い学力の育成</b>          「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p><b>【重点目標10】家庭の教育力の向上</b>          家庭教育の自主性を尊重し、教育の出発点である家庭の教育力を高めるための支援を推進する。</p>		
事務事業名	特色ある学校づくりⅣ	担当部署	学校教育課
事業実績			<p>① リーフレット「大山崎っ子できます10」の活用          小・中学校で身に付けてほしい10項目の取組を定め、達成するために小学校低学年、中学年、高学年、中学生の4段階に分け、学年ごとに目当てを示した「大山崎っ子 できます10」を作成し、全児童生徒への配布と各教室での掲示や学校だよりでの紹介を行い、毎日の生活で意識することや保護者への啓発と協力を願った。</p> <p>学校評価における児童生徒や保護者へのアンケート調査の項目に盛り込み、目標項目に対して達成状況を把握した。</p> <p>② 作品応募の成績や活動の実績（抜粋 掲載以外にもあり）          小・中学校とも、各種団体の作品応募に積極的に取組み、児童生徒のもつ能力の育成と発揮する機会を持たせ、多くの優秀なる評価を得た。また、スポーツ活動にも実績を残した。（以下はその一例）</p> <p>＜大山崎小学校＞</p> <p>「第15回京都発！手紙でむすぶ家族ふれあい大賞」エフエム京都賞1名、「第30回平和ポスターコンテスト」クラブ優秀賞4名、他賞1名</p> <p>「全国教育美術展」特選5名、佳作20名、入選5名</p> <p>「明るい選挙啓発ポスター」大山崎町明るい選挙推進協議会長賞等4名</p> <p>「平成29年度人権擁護啓発ポスターコンクール」佳作2名</p> <p>＜第二大山崎小学校＞</p> <p>「緑化ポスターコンテスト」佳作2名</p> <p>「全国教育美術展」佳作11名、入選4名</p> <p>「税に関する習字コンクール」金賞1名、銀賞3名、銅賞6名</p> <p>「京都新聞書き初め展」審査委員会賞1名、特選2名、準特選3名</p> <p>＜大山崎中学校＞（主なもの）</p> <p>「全国中学生フェンシング選手権大会」          個人フルーレ 女子6位、男子11位</p> <p>「中学校総合体育大会」（夏季大会の結果）</p> <p>女子バレーボール部 乙訓大会優勝、山城大会3位</p> <p>女子ソフトテニス部 乙訓大会団体優勝、山城大会個人準優勝</p> <p>サッカー部 乙訓大会準優勝、山城大会3位</p> <p>野球部、男子ソフトテニス部、男女卓球部 乙訓大会準優勝          （乙訓大会の個人成績は未掲載）</p>

	<p>「京都府緑化運動と愛鳥週間ポスターコンクール」 佳作5名</p> <p>「子ども読書本のしおりコンテスト」 佳作1名</p> <p>「税についての作文」 右京納税協会会長賞2名</p>
成 果	<p>① 本町教育振興計画を踏まえ、日々の生活の中で大切にしたいことや9年間を通して醸成したい項目を統一して掲げ、各家庭へも啓発したことにより、これに基づき一貫性のある指導と協力が得られ、挨拶や時間を大切にするなどの項目をはじめ効果が上がっている。</p> <p>② 各種団体への作品応募を取り組むことにより、学習によって得た能力や特技の向上と一層の意欲喚起を図ることができた。また、応募結果や大会結果を児童生徒の前で伝達顕彰することで、更に効果が現れている。</p>
課題認識	<p>① 教職員への周知や保護者への啓発をはじめ、学校教育だけではなく、保護者や地域住民を含め広く広報活動が必要である。</p> <p>② 教科内の時間において応募作品に取り組むことは難しく、家庭での課題学習となり、全員が取り組むことや作品へのアドバイスができない。</p>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーフレット「大山崎っ子できます10」は9年間の見通しを意識し作成されているのが良い。また、達成するためにスマールステップで目当てを決め、啓発されたのも良い。また、引き続き、保幼小連携で就学前児、保護者等にも啓発するなど、本町の子ども達の育成に総掛かりで取り組む機運の醸成に期待したい。ただ、児童生徒が「10」に近付いているのか検証したり、リーフレットの内容そのものを見直したりしながら推進されることを願う。アンケート結果はどうだったのか、公表されたのか気になるところではある。</li> <li>フェンシング大会はじめ各大会等で優秀な成績を残されており、今後も継続した取組を期待したい。但し、これから指導は教職員だけに任せるとではなく具体的支援の方向を検討されたい。</li> <li>各種作品募集や大会に積極的に参加され、児童生徒の励みにも自信にもなり得るので評価できる。多彩な募集全てには対応できないから、教育課程に取り込めるものを精選し、年度当初に位置付けておくと指導が可能となる。また、それ以外は個々に応募しても良いのではないか。</li> <li>作品応募の成績や活動の実績において、例年にも増して好成績を残されており、素晴らしい。今後も積極的に取り組み、好成績を期待する。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標6】安心・安全で、いじめのない楽しい学校づくりの推進</b> 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう家庭・地域と連携・協働した取組を進める。		
事務事業名	いじめ問題への取組	担当部署	学校教育課
事業実績	1 「いじめ問題への取組の徹底」(教育長通知5月31日) 全校生徒を対象とした3回のいじめ問題調査 ・調査方法：アンケート及び面接調査による実態把握 (3回目は2回目調査における追跡調査と日常の観察等による実態把握) ・調査結果を学校評議員やPTA本部役員に説明 ・学校だよりを通して概要報告 ・調査の対象期間は4月又は前回調査終了日から各調査実施日まで (調査実施日) ① 1回目 6月15日から 7月20日まで ② 2回目 11月15日から 12月22日まで ③ 3回目 3学期当初から3月末まで 2 人権教育の学校の取組 <大山崎小学校>なかよし集会、人権週間の設定、学年毎の人権学習 <第二大山崎小学校>人権の木、人権週間の設定、学年毎の人権学習 <大山崎中学校>人権週間の設定、学年毎の人権学習、学年集会、教育相談の実施(6、11月) 3 学校におけるいじめ防止基本方針の研修・実施(平成26年4月より実施)及び校内いじめ防止対策委員会の定期的(ほぼ隔週)な実施 4 町いじめ防止対策推進委員会(専門職5人)、いじめ防止連絡協議会(乙訓の小中学校生徒指導主任)の実施 5 町いじめ防止研修会(1月22日)		
成 果	・アンケート及び面接による調査により、児童生徒の「いやな思いをした」という実態の把握や確認することができ、適切な指導をすることができた。 ・平成28年度に比べ、小学校では認知件数が大きく減少した。 ・事象には、事態が深刻化しているものや早期解決を図ることが難しいものも発生したが、適切な対応により重大事態までには至らずに対応することができた。 ・学校におけるいじめ防止基本方針に沿っての年度当初の確認や校内いじめ防止対策委員会の定期的な開催により、教員のいじめに関する意識が一層高まっている。 ・町内の全職員を対象とした緊急の研修会の実施により、いじめに対する教職員の責務と組織的な指導体制の必要性が更に自覚され、一層の危機感を持って対応できている。		
課題認識	・いじめの問題の重要性といじめはいつ起こるかわからないという認識のもと、教員の人権感覚を高めるとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期対応をはじめ、いじめを許さない学校づくりへの組織的な取組の徹底が重要である。		

評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乙訓地域では人権擁護委員による中学生対象の人権教室も実施されており、あらゆる教育活動での人権教育の推進を期待する。</li> <li>・アンケート、面接、研修会等を行い、未然防止、早期発見・早期対応に努力された。事象を総合教育会議等でも話され、緊急の情報共有・研修会等で対応されたことは評価できる。ただ、全国ではいじめにより重大な事件になったというニュースが後を絶たない。今後も形骸化しないようにして、一人一人が自尊感情や自己有用感が持てるような居場所作り、いじめを許さない学校作りに取り組んでいただきたい。</li> <li>但し、アンケートの時期は日々の指導に生かせるよう学期途中にできないか。</li> <li>・教職員の気付く力…鋭い人権意識、学級経営力、児童生徒理解・生徒指導力の向上が鍵になる。</li> <li>・チーム学校として、スクールカウンセラーや関係機関との連携を日常的に行えるように意識してほしい。</li> </ul>
---------	--

## 事務事業番号&lt;8&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標2】一人一人を大切にした教育の実施</b> 特別支援教育、人権教育など一人一人を大切にした教育を推進し、その能力や可能性の伸長と実践的態度を育成する取組を推進する。		
事務事業名	特別支援教育推進事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 特別支援学級の設置 ・大山崎小学校 3学級（知的障害：2学級、自閉症・情緒障害：1学級） ・第二大山崎小学校 2学級（知的障害：1学級、自閉症・情緒障害：1学級） ・大山崎中学校 2学級（知的障害：1学級、自閉症・情緒障害：1学級） ② 通級指導教室の設置 ・大山崎小学校 通級児童数43名 ・第二大山崎小学校 通級児童数21名 ③ 個別の特別支援教育の充実 特別支援教育支援員（町単費）の配置 ・大山崎小学校 2人 ・第二大山崎小学校 1人 ・大山崎中学校 平成29年度は府費にて1人配置 ④ 大山崎町教育支援委員会 ・大山崎町教育支援委員会総会（6月20日、11月13日、2月26日開催） ・ " 就学前部会（6月20日、10月24日開催） ・ " 在学部会（5月18日、6月20日、11月7日、3月12日開催） ・ " 特別支援教育推進部会（6月20日、9月26日、12月27日、2月20日、3月7日に支援ファイルの研修会として開催） ・各幼稚園、保育所への参観（9月末～10月） ・保護者との就学指導についての協議 平成25年度から、支援委員会の審議結果を該当未就学児童の保護者に、より丁寧に経過説明と今後の就学指導をするため、従来の所属長等だけではなく、就学先校長や事務局も入り、連携して保護者との就学指導の相談と就学先を決めている。 ⑤ 学級林間学習（7月24、25日実施）、特別支援学級「卒業・進級を祝う会」（2月14日実施）の取組		
成 果	① 特別支援教育支援員の配置により町内二小学校の特別支援学級では、個々の児童に個別に対応でき、児童の学校生活面においても、情緒の安定につながり、また、学力向上にもつながってきている。 ② 大山崎町教育支援委員会の審議結果等を該当未就学児童の保護者に関係機関の長等が入って伝えることにより、就学についてより深く丁寧に懇談することができ、就学先決定に参考となる協議ができた。		

課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校見解の児童の在籍や通常学級における特別な支援が必要となる児童生徒の在籍割合が多くなる中、どのような支援体制を確立し、どのような支援ができるかを認識し、実践する必要がある。</li> </ul>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校に知的障害及び自閉症・情緒障害、それぞれの学級が設置されていることは非常に評価できる。</li> <li>特別支援教育を実施する上で、保・幼・小の連携は重要であり、今後も連携を密にし、適切な指導が実施されることを期待する。</li> <li>両小学校に設置されている通級指導教室は、利用児童数多く、その役割は重要である。通級指導教室の高校への拡大が始まる。大山崎中学校においては特別支援教育支援員の配置が行われ、評価するも、インクルーシブ教育の視点からも通級指導教室の設置が望まれる。</li> <li>「大山崎町教育支援委員会」への名称変更に伴う内容の充実を期待する。</li> <li>特別支援教育支援員の配置は、大変望ましい。ソフト面の「合理的配慮」の視点で更に人員増及び専門性のある人材が配置されるよう願う。</li> </ul>

## 事務事業番号&lt;9&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標4】健やかな体の育成と体力の向上</b> 生き生きと逞しく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣をはじめ、健康的な生活を実践する態度を養う。		
事務事業名	小学校給食	担当部署	学校教育課
事業実績	① 学校給食実施 実施児童数 870人（平成29年5月1日現在） 米飯給食 週3・5回実施 ② 安心・安全な給食を実施するための衛生管理及び食中毒防止対策 給食施設の監視指導及び給食調理員・栄養教諭（職員）を対象に衛生研修会を実施。また、給食室害虫駆除、調理従事員等保菌検査等を実施。 ③ 学校給食調理等業務委託実施（全小学校）		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食の給食調理員・栄養教諭（職員）を対象とした衛生研修会では、スライドを使用した研修方法を実施し、給食調理員・栄養教諭（職員）の衛生管理の意識向上を図ることができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の給食センターの運用開始を見据えると、将来的な既存給食室の配膳室への改修も考慮しながら、施設の改修を行う必要がある。</li> </ul>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校給食の実施方法が小学校を含めたセンター方式に決定されたことに伴い、両小学校の給食設備の内容は大きく変わろうとしている。センター方式が実施された時のことを考慮し、無駄のない設備更新をお願いしたい。</li> <li>栄養教諭による食育の指導も重要な役目を担っており、研修等も含め今後も継続されたい。</li> <li>今後も適切なアレルギー対応等が施された安心・安全な給食提供を望む。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標8】教育環境設備・整備の充実</b> 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	学校給食施設基本設計業務	担当部署	学校教育課
事業実績	中学校給食の導入（給食センター建設）に向けて、以下の項目について基本設計（検討）を行った。 1 敷地選定 2 配送計画 3 廚房設備計画 4 法規制条件 5 施設整備計画 6 概算工事費 7 概算工期 8 特例審査に関する協議  上記「大山崎町学校給食施設基本設計業務委託」 受託事業者：パシフィックコンサルタンツ株式会社 業務委託料：10,476,000円 履行期間：着手 平成29年11月14日～完成 平成30年3月30日 成果物：大山崎町学校給食施設基本設計業務報告書及び報告書【資料編】		
成果	平成28年度までの「中学校給食の導入に向けての検討」を踏まえて、平成29年度において、給食センター建設敷地を「体育館第二駐車場（中学校前の東側公有地）」に確定し、併せて上記各項目について基本設計を実施した。  基本設計に基づき、平成30年度当初予算において、「中学校給食施設等実施設計業務（給食センター及び両小学校の配膳室）委託の予算（38,579千円）を計上した。  施設建設予定期工期を平成31年7月から平成32年6月までとし、中学校給食の開始時期を同年9月（二学期）からと計画している。		
課題認識	町の財政状況を考慮し、事業の進捗を図ることが必要であるが、既存の両小学校給食調理施設の老朽化の状況から見て、新設の給食センターからの給食配送の早期実施が望まれる。  中学校給食実施に向けて、具体的な協議・調整を行う学校現場レベルでの組織を立ち上げて取り組む。		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成32年9月の中学校給食実施に向け、遅滞無きよう計画を遂行されたい。</li> <li>中学校給食は検討委員会の提言を基に、当初予算化もされ計画的に進められている。老朽化の小学校の給食室も将来的に町の学校給食として総合的に考えられていることは評価できる。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進</b> 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。</p>		
事務事業名	教師力向上事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 大山崎町学力向上対策会議 児童生徒の学力の充実・向上を目指し、町学力向上対策会議（担当校長、担当教頭、各校教務主任、指導主任で構成）を年3回実施した。 各校の府学力診断テスト（小4、中1・2）、全国学力・学習状況調査（小6、中3）及び標準学力調査（小2・3・5 町費負担）の分析を行い、成果と課題を交流し、小中学校間の系統的な課題克服に向けた方策の検討と実践や、小中連携の研修会に取り組んだ。</p> <p>② 大山崎町「教師力向上小・中学校連携」教職員研修会 本研修会は、町学力向上対策会議で企画・立案し、中学校教師の小学校への乗り入れ授業や小・中連携を活かした研修会、公開授業参観を実施した。 全体教職員研修会は年2回、教科部会を年5回実施し、第2回全体教職員研修会は大山崎小学校を会場に、各教科で小・中学校の教師が丁々で、公開授業を実施した。（乗り入れ授業） 〈第1回小中連携研修会（リーダー会議）〉 開催日：6月19日 大山崎小学校 参加人数：約15名 内 容：今年度の方針・取組内容の確認 〈第1回教科部会〉 開催日：8月2日 大山崎中学校 参加人数：約80名 内 容：乗り入れ授業について（単元の決定） 〈第2回教科部会〉 開催日：11月6日 大山崎中学校 参加人数：約80名 内 容：公開授業参観、乗り入れ授業について（指導案検討） 〈第3回教科部会〉 開催日：1月11日 大山崎小学校 参加人数：約80名 内 容：乗り入れ授業について（事前研究会） 〈第2回小中連携研修会、第4回教科部会〉 開催日：1月16日 大山崎小学校 参加人数：約80名 内 容：乗り入れ授業、事後研究会、全体研修会</p> <p>③ 町立小・中学校新規着任教職員研修会 本研修会は、若手人材育成と本町の特色の理解を深めることを目的に継続的に実施している。午前の部では、新規教職員の研修会を実施し、午後の部では、新規教職員と着任教職員を対象に大山崎町の史跡学習を行った。 開催日：7月27日 参加人数：10名 内 容：午前は、新規教職員対象の研修会 午後は、新規教職員と着任教職員対象に、大山崎町の歴史についての</p>		

	<p>講話と、その後は大山崎町内の史跡名所等の現地学習</p> <p>④ 道徳教育研修会</p> <p>本研修会は、児童生徒への道徳的実践力を育てるため、教師の授業力の向上を目指して実施した。(講師：京都府乙訓教育局 指導主事)</p> <p>開催日：8月1日 参加人数：約80名</p> <p>内 容：「道徳科の評価の在り方について」をテーマに講師が教師参加型の研修会で、道徳の教科化に向けて活用できる講義を実施した。</p> <p>⑤ 研究指定に係る公開授業・授業研究会</p> <p>ア 第二大山崎小学校では、平成28・29年度京都府教育委員会、大山崎町教育委員会指定「学力向上システム開発校」を受け、公開授業を実施した。</p> <p>開催日：1月30日 参加人数：約100名</p> <p>内 容：公開授業、研究発表、指導講評（乙訓教育局指導主事）、講演（大阪成蹊大学教育学部 赤沢真世 准教授）</p> <p>イ 大山崎中学校では、平成29年度京都府乙訓教育局研究指定、大山崎町教育委員会指定「OASIS校」を受け、公開授業研究会を実施した。</p> <p>開催日：11月6日</p> <p>内 容：研究授業（社会・理科・音楽・英語）、事後研究会、全体会、指導講評（乙訓教育局指導主事）</p> <p>⑥ 指導主事・教育委員学校訪問</p> <p>町「学校教育の重点」の趣旨の実現に向けた教育活動の充実を図るため、各学校の課題について必要な指導助言を行うことを主な目的として、「指導主事・教育委員学校訪問」を5・6月に町内全小・中学校で実施した。全学年・学級での公開授業を参観し指導講評を行った。</p> <p>開催日：5月23日 大山崎小学校 6月8日 大山崎中学校 6月22日 第二大山崎小学校</p> <p>内 容：一般授業参観、授業に対しての指導助言</p>
成 果	<p>① 小中連携研修会では、7つの教科部会（国語、社会、算数・数学、理科、実技、外国語、教育相談）を組織し、小中の教職員が、「学習意欲の向上」に絞って授業研究を重ね、乗り入れ授業等を実施することができた。部会を通して、小・中学校の教員が互いの指導方法を学び、授業力の向上が図れた。</p> <p>② 本町では、夏季休業中の教職員の道徳研修会は十数年続いている、伝統的な取組である。その取組の成果として、「指導主事・教育委員学校訪問」の公開授業では、道徳の授業を行う教員が増えてきた。資料の選定や授業内容も児童生徒の心に響くようになり充実してきた。</p>
課 題 認 識	<p>① 若手教職員が増えていく中、ミドルリーダー及び若手教職員の育成と授業力向上に向けた研鑽が今後の課題である。</p> <p>② 新学習指導要領の実施を意識した研修（特に道徳・外国語）を充実させていく必要がある。</p>

評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町は2つの小学校と1つの中学校というコンパクトな学校構成になっており、小・中連携を図りやすい環境であり、タイムリーな課題に対応した研究・研修をされている。今後とも質の高い授業が実施できるよう、共通認識のもと新学習指導要領も含め計画的に授業改善に向け研究されたい。</li> <li>・新規着任教職員研修は、児童生徒と「大山崎町」を学ぶ上で欠かせない意義あることであり、今後も継続して実施されることを望む。</li> <li>・教職員の世代交代が進む中、授業力(指導技術)の継承、新学習指導要領に向けた工夫改善、危機管理意識等の特にミドルリーダーや若手の人材育成が急務である。</li> <li>・教師力というととく、学力・授業に視点がいくが、そのベースとなる児童生徒理解、生徒指導、学級経営の中で児童生徒に居心地の良い場所を創り出す力の育成を望む。特別支援・人権等の実践的指導力や人間性・社会性といったソフト面の教師力も重要視したい。</li> <li>・児童生徒に望む新しい時代に対応できる力は教職員にも期待されている。教育課題も多い中、今後もキャリアステージに応じたキャリアアップ計画を立てさせ、OJTを含め意識的に実践的指導力の向上を図る必要がある。京都府教育委員会の「求められる京都府の教員像」「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」も活用されたい。</li> <li>・各校の講師も多いから、教育の質の向上を願うなら研修の必要性を感じる。</li> <li>・「教育は人なり」教師力の向上がチームとして協働する学校力の向上に繋がる。</li> </ul>
---------	---

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標6】安心・安全で、いじめのない楽しい学校づくりの推進</b> 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう家庭・地域と連携・協働した取組を進める。</p>		
事務事業名	子どもの安心・安全に関する事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>◇通学路の安全対策 大山崎町通学路安全推進会議の実施 【実施日】10月11日 【参加関係機関】京都国道事務所、乙訓土木事務所、向日町警察署、見守り隊代表、PTA代表、乙訓教育局、建設課、経済環境課、政策総務課、教育委員会 通学路における対策必要箇所の進捗状況の確認と新規対策必要箇所の選定（継続4箇所、新規2箇所）をした。また、合同点検を行い、対策必要箇所の現場確認を実施した。</p>		
成 果	通学路安全推進会議を開催し、対策必要箇所の状況把握や合同点検を通して、安全対策に向けて関係諸機関と連携することができた。		
課題認識	<p>① 年間を通した子ども安全見守り隊、PTAによる安全指導の継続的な取組、交通指導員の通年配置、青色パトロール車による防犯活動等、ソフト面では地域ぐるみで連携した安全・安心の確保が浸透しているが、ハード面も含めた道路事情の変化に対応した更なる取組が必要である。今後も関係機関が連携しての継続的な確認と点検、対策の取組が必要である。また、日常を通しての防災、防犯対応も含めた更なる安全教育も必要不可欠である。</p> <p>② 毎年、通学安全推進会議を実施し、今後の町内道路状況の変化に合わせ危険箇所の抽出、また必要な安全対策を検討する必要がある。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の降りかたや夏の体温を超えるような高温等、近年は自然環境が以前に増して厳しくなっている。このような変化に遅れることのないよう、普段から備えを十分に行い、家庭・地域・行政が連携し、児童・生徒の安全を確保するよう努められたい。</li> <li>・児童生徒自身に事故・事件・災害等から学び、防犯・防災「自分の身は自分で守る」指導も期待する。</li> <li>・通学路等の点検等にも町教育委員会として建築等の技術専門職員の配置を望む。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標7】指導体制の充実</b> 少人数授業の実施やチームティーチングなどの指導方法、少人数学級などの指導体制の工夫改善と指導力の向上を図る。また、保幼小中の連携を踏まえた接続可能な教育体制を創造する。		
事務事業名	幼稚園就園奨励事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 大山崎町私立幼稚園就園奨励費補助金 保護者の町民税の所得割課税額に応じて補助金を交付 (園児183人、総額23,321,200円) ② 大山崎町私立幼稚園児教材費補助金 10月1日現在、私立幼稚園に在園している3歳以上の園児の保護者全員に交付 保護者に園児1人あたり42,000円 (園児198人、総額8,316,000円) ③ 大山崎町私立幼稚園設備費補助金 町内私立幼稚園に設備、備品の購入に要する経費に対し補助金を交付 (実績総額210,000円) ④ 大山崎町乙訓私立幼稚園協会研究補助金 協会が行う教育研究事業を実施するための経費を対象に補助金を交付 (乙訓私立幼稚園協会、総額65,000円) ⑤ 第3子無償化事業 多子世帯の保護者の経済的負担を軽減するために補助金を交付 (対象園児12人、総額1,355,400円)		
成 果	① 私立幼稚園児の保護者の経済的負担を軽減することができた。また、引き続き第3子無償化事業を実施し、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに繋がった。 ② 大山崎町私立幼稚園設備費補助金を交付することより、私立幼稚園の設備、備品の整備を促進することができた。 ③ 幼稚園教諭の研修会等の実施経費を補助するなどの支援を行うことにより、幼児教育の振興を図ることができた。		
課題認識	国の基準で交付している私立幼稚園就園奨励費補助金は、平成29年度において国庫補助金割合が平成28年度に比べ増加したものの、町の負担が大きい状況にある。 25年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額21,724,200円 (国庫補助金5,297,000円 町単費16,427,200円) 26年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,710,400円 (国庫補助金6,141,000円 町単費18,569,400円) 27年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,190,800円 (国庫補助金7,038,000円 町単費17,152,800円) 28年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額22,386,000円		

	<p>(国庫補助金 6,854,000円 町単費 15,532,000円)      29年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額 23,321,200円      (国庫補助金 7,403,000円 町単費 15,918,200円)</p>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>就園奨励費補助金は、国庫補助率が減少しているため町の財政負担が大きくなっている。国庫補助率が引き上げられるよう国に要望する必要がある。</li> <li>当該補助金に関する事務が複雑化しており、事務の簡素化も望まれるところである。</li> <li>子どもの貧困が教育に悪影響を与えていていることが、社会問題化していることに鑑み、今後も経済的な支援が継続されることを期待する。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標8】教育環境設備・整備の充実</b> 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	学校施設・整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校裏門門扉改修工事</li> <li>・第二大山崎小学校管理教室棟2～4階トイレ改修工事 等</li> </ul>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二大山崎小学校のトイレ改修等、児童へ良好な教育環境を提供できた。</li> <li>・学校施設の老朽箇所の改修を実施し、児童が安全で安心して学ぶことのできる教育環境の整備を図ることができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校施設は建築年数が40年以上と相当経過しており、改修を要する部分が散見される。そのため、学校施設全体の状況を把握し、施設の長寿命化等を検討する必要がある。</li> <li>そして、児童が安心して学校生活を送ることができるよう計画的な教育環境の整備が必要である。また、今後の児童生徒数の変化を見極め、計画的な施設整備が必要である。</li> <li>・中学校においては、中長期的な視点に基づいた計画的な整備を実施し、施設の保全を図ることによって、良好な教育環境の維持に繋げる必要がある。</li> <li>・多様化する社会的ニーズを捉え、施設機能の充実を検討する必要がある。</li> </ul>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両小学校とも耐震化は完了したものの築後40年以上が経過しており、校舎の老朽化は顕著である。良好な教育環境を保つため、外壁の改修、教室の内装改修等計画的に、そして積極的に改修に取り組んでいただきたい。</li> <li>・中学校においては、築後年数も浅く大幅な改修工事は必要ないが中長期的な施設保全を計画されたい。</li> <li>・築年数が経てば改善・改修箇所が増えることも予想される上に、給食施設・設備の建築もある。社会教育関係の公民館等のこともある。技術部署として担当係を独立させられないか。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標11】地域社会の教育力の向上</b> 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する。		
事務事業名	ときめきチャレンジ推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<b>【土曜日開催】</b> ① 6月24日 竹細工体験 参加者：26名 協力：大山崎竹林ボランティア ② 7月15日 手品教室 参加者：38名 協力：YMCAマジッククラブ 富岡 清子 氏、京洛マジック 篠原 照美 氏 ③ 9月9日 ソフトねんどクラフト体験 ～かわいいどうぶつのマグネットをつくろう～ 参加者：32名 協力：桑原 めぐみ 氏 ④ 10月14日 ドキわくレクリエーション ～スクリーンで見るかみしばいと、からだをうごかすあそび～ 参加者：36名 協力：大山崎ふるさとガイドの会、放課後児童クラブ指導員 ⑤ 11月18日 神楽体験 ～見て！作って！体験しよう！～ 参加者：12名 協力：京都造形芸術大学（京都瓜生山舞子連中） ⑥ 12月9日 風作り＆風あげ～オリジナルデザインの風を作ろう！～ 参加者：21名 協力：ときめきチャレンジ推進事業運営委員 ⑦ 2月3日 正しい手洗いで生菓子づくり体験 参加者：23名 協力：乙訓食品衛生協会・乙訓菓子研究会 ⑧ 3月10日 貼って描こう カラフルな大山崎 参加者：8名 協力：京都造形芸術大学（学生） <b>【平日開催】</b> プログラミング教室 協力：プログラミングネットワーク京都 蘆田 昇 氏・安藤 美紀子 氏 場所：大山崎小学校 ① 9月27日 参加者：26名、② 10月4日 参加者：27名 場所：第二大山崎小学校 ② 9月13日 参加者：19名、②9月20日 参加者：20名 <b>【その他】</b> 4月22日 人形劇とブックフェア 参加者：88名 協力：竹の子文庫、おぐら文庫		
成 果	・総勢400名近い児童が本事業に参加し、土曜日を中心とした学校時間外の時間を活用して心身の健全育成に資することができた。 ・例年実施している恒例活動に加え、新しい内容の活動を織り交ぜることにより、定期的に参加している参加者の慢性化を防止しているとともに、参加者の安定的な確保につながっている。 ・社会教育委員の中から事業の講師を依頼し、社会教育関係者の有機的な活用を図ることができた。 ・平日の放課後での実施が始まり、放課後子ども教室の目的である放課後の子どもの居場所づくりの達成に近づいた。		
課題認識	放課後の時間の有効活用という観点から、土曜日にとどまらない事業の在り方を模索していく必要があり、29年度から年4回の平日開催を実施したが、今後		

	の平日開催の拡大による場所と人員の確保や講師の手配など、持続的な運営方法のあり方が今後の課題となっている。
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育団体との連携により、様々な企画を立案・実施されていることは評価できる。</li> <li>・平日開催されることは喜ばしいことであるが、放課後児童クラブとの一体型の取り組み方に十分な検討と工夫をお願いしたい。今後、体制として地域学校協働本部に位置付けていくことはどうか。</li> </ul>

## 事務事業番号&lt;16&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標11】地域社会の教育力の向上</b> 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する。</p>		
事務事業名	青少年体験教室	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>化石発掘体験教室 8月24日 結団式・博物館見学（場所：町立中央公民館・大阪市立自然史博物館） 参加者：12名 協力：大阪市立自然史博物館 学芸員</p> <p>11月23日 化石発掘（場所：宇治田原町） 参加者：12名 協力：小田 公生 氏</p> <p>12月9日 化石クリーニング（場所：町立中央公民館） 参加者：11名 協力：小田 公生 氏</p> <p>3月24日 天王山フィールドワーク・解団式（場所：ふるさとセンター・天王山） 参加者：11名 協力：生涯学習課 文化芸術係</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧事業を更新するかたちで平成27年度から実施している体験事業で、29年度においては当初の申込者12名が1年間を通じて「化石発掘」をテーマとした体験学習を受講した。事故や怪我なく、体験を通した有機的な学習を提供することができた。</li> <li>化石の出土状況や断層の状況からは過去の環境（古環境）が分かる。古環境の推移を知ることで防災や地域学習に役立つことを学べた。また、町内の探索（天王山）により、学んだ内容を町内の環境を学ぶ上でも役立つことを知ることで、自身のいる地域への興味へ繋げることができた。</li> </ul>		
課題認識	事業開始から3年が経過し一定の成果を得たことに加え、放課後子ども教室の拡充に重点を置くこととし、本事業は29年度をもって終了することとなった。		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業が終了したのは残念である。今後の放課後子ども教室の拡充に期待する。</li> </ul>		

## 事務事業番号&lt;17&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標12】人権教育・啓発の推進</b> 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向け、人権意識を高め人権感覚を身に付ける取組を推進する。		
事務事業名	人権教育・啓発の推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	本町では、様々な人権問題についての理解と認識を深めるための町人権教育研修会をはじめとするイベントを開催するとともに、人権週間や人権強化月間における街頭啓発の実施など、多様な機会・場を活用した教育、啓発活動に努めている。  平成29年度第1回大山崎町人権教育研修会 8月18日 演題：「私からはじまる 部落問題」 場所：中央公民館 参加者： 72名 講師：一般財団法人 大阪府人権協会 業務執行理事兼事務局長 柴原 浩嗣 氏  平成29年度第2回大山崎町人権教育研修会 12月13日 演題：「仕事と生活の調和」が実現できる職場をめざして ～職場の取組事例や、子育て・介護との両立について学ぶ～ ※男女共同参画事業講演会を兼ねて実施 場所：中央公民館 参加者：84名（参考：男性=40人、女性=44人） 講師：一般財団法人 女性労働協会 女性就業支援専門員 菅原 幸子 氏		
成 果	個性・環境・文化・価値観が異なる人々が、共に生きる（暮らす）ためには、たくさんの人々が理解を深めることが大切であることから、毎年多くの参加者がある当該研修について継続的な実施が図られた。		
課題認識	すべての“人権問題”的解決に向け、人権尊重を日常生活の習慣として身に付けるために、さらに継続的に学ぶ機会を提供する必要がある。		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年8月の人権強化月間に合わせて開催されている本事業は、人権問題を考える良い機会となっており、今後も継続して実施されたい。</li> <li>・平成30年度は世界人権宣言が国連総会で採択されて70周年を迎える年にあたり、多くの学習機会を設けて人権啓発に努められたい。</li> <li>・障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮の必要性などが話題となっているが、多くの学習機会を設けて人権啓発に努められたい。</li> <li>・人権問題をいろいろな切り口から考えることは大切であり、研修会を年2回と固定せず、多くの学習機会を設けて人権意識の高揚に努められたい。また、参加者の裾野を広げることも必要か。</li> <li>・各学校のPTA研修の中に「人権研修会」が位置付いているか。さらに、この事業を学校教育との連携で進められないか。</li> </ul>		



平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標9】生涯学習を推進する体制の充実</b></p> <p>生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯を通して、理解し合い、学び合うまち」づくりをめざして、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。</p>		
事務事業名	大山崎町成人式事業	担当部署	<p><b>生涯学習課</b> (生涯学習・スポーツ振興係)</p>
事業実績	<p>第65回大山崎町成人式 平成30年1月8日</p> <p>第1部 開会の辞、国歌・町歌斎唱、式辞、祝辞、くす玉割り、新成人の誓いの言葉、祝電、閉会の辞、集合写真</p> <p>第2部 なし</p> <p>会場：大山崎中学校 体育館</p> <p>スタッフ 前日5名／当日14名</p> <p>第2部実行委員 応募者なし</p> <p>商工会マスコットキャラクター（着ぐるみ）ララン出演</p> <p>町内新成人：対象154名 出席108名 出席率70.1%</p> <p>町内外合わせた出席数 男75名 女33名 総数108名</p> <p>記念品：スポーツタオル (特定非営利活動法人 ワークショップ友愛印刷 就労継続支援B型事業所)</p> <p>・誓いの言葉発表者は、中学校3年生当時の学年主任と担任の先生と相談し、候補者（男・女）に直接依頼</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員の応募はなかったが、くす玉割りやララン（着ぐるみ）の出演など、大山崎町らしい温かな成人式を実施することができた。内容は参加者にも好評であったと感じた。</li> <li>例年の会場である町体育館が使用できなかったことから大山崎中学校が会場となつたが、結果的に参加者には思い出深いものになったと思われる。</li> <li>会場を乱すような参加者はおらず、円滑に執行することができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>課を横断してスタッフがかかわる為、準備や運営等について、最終確認と情報の共有が不可欠。</li> <li>29年度は会場が例年と異なつたため、備品や設備の確認にはできる限り気を配る必要があった。</li> <li>来場時は集中して混雑するため、一時的にスタッフの人数に余裕がなくなる。</li> </ul>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校で学んだ頃の同窓会的な役割も担つており、参加してよかったですと思えるような事業の実施が望まれる。</li> <li>第2部は昨年度に引き続きスタッフ応募者がなかったことを考えると、第2部のやり方を再検討する必要がある。</li> <li>今後（2022年4月？）18才成人もあり得る。その時の在り方も早くから検討していく必要がある。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標9】生涯学習を推進する体制の充実</b> 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯を通して、理解し合い、学び合うまち」づくりをめざして、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
	事務事業名	男女共同参画事業	担当部署 生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
<p>本町では、男女共同参画社会基本法に基づき平成17年3月に「みとめ愛プラン」(男女共同参画計画)を策定し、第2次・第3次計画と見直しを行うとともに、町広報誌、町ホームページを通じた啓発活動に努めている。</p> <p>また、ワークライフバランスをテーマとした講演会を開催した。</p> <p>演題：「仕事と生活の調和」が実現できる職場をめざして ～職場の取組事例や、子育て・介護との両立について学ぶ～」(再掲) ※人権教育研修会の第2回講演会を兼ねて実施</p> <p>場所：中央公民館 参加者：84名(参考：男性=40人、女性=44人) 講師：一般財団法人 女性労働協会 女性就業支援専門員 菅原 幸子 氏</p> <p>輝く女性応援京都会議(乙訓地域会議)のワークショップや会議、DV被害者支援研修への参加。</p> <p>HPや町広報誌を活用した町民への周知、啓発。</p>			
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民のワークライフバランス意識の向上に資することができた。</li> <li>・女性団体間、ならびに団体と町との繋がりを強化できた。</li> <li>・DVについて町民への周知を図ることができた。</li> </ul>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もDVや、男女共同参画について町民に広く周知し、啓発を進めること等により、地域の方が男女共同参画を自らの課題として考え、互いに協力し合うことができるよう努める必要がある。</li> <li>・限られた予算の中で事業効果を得られるよう、より効果的な手法を検討し講じていく必要がある。</li> </ul>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに策定された第3次男女共同参画計画「みとめ愛プラン」を、広く町民に知ってもらえるような施策として講演を企画された。人権研修会と兼ねられたのも良かった。</li> <li>・第3次男女共同参画計画「みとめ愛プラン」が策定されて1年以上が経過するが、本町において同プランへの関心は高くないよう推察する。男女共同参画に関する認知度を上げるため、町挙げてのPRが必要ではないか。6つの基本理念を基に、庁内推進体制を整備し、具体的な数値目標や今後の計画を検討し、町民との協働による推進に努められたい。</li> <li>・女性独自への支援策は必要である。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標9】生涯学習を推進する体制の充実</b> 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯を通して、理解し合い、学び合うまち」づくりをめざして、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
	事務事業名	ホストタウン事業	担当部署 生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	1 役場庁舎内ならびにふるさとセンターにホストタウンに関する常設の展示コーナーを設置 平成28年10月から継続実施～（3ヶ月ごとに更新） 2 平成29年度大山崎町ジュニアスポーツ派遣事業 12月9日（土）～10日（日） 参加：16名 ①スポーツ栄養学の講義 ②伝統芸能体験「琉球舞踊」 ③大学施設見学 ④日体大スポーツフェスタへの参加 3 大山崎町スイスフェア2017 9月24日（日） 参加：約300名 ①スイス伝統音楽の演奏会 ②スイスクイズ ③スイス関連物販（食器等雑貨、スイス菓子、スイス料理とワイン） ④その他（啓発グッズの配布、事業紹介展示 等） 4 給食でスイス料理を提供 平成29年1月～6月の各月1回 前年度から引き続き、町内の全町立小学校（2校）と全町立保育所（3園）で実施。 5 オリパラ教育推進事業 講演会「夢に向けて頑張ることの大切さ～情熱を持ち続けている限り成長は無限大～」 日時 1月15日（土） 対象 大山崎中学校全校生徒 講師 プロボクサー・堀川 謙一氏 演題 「チャンスのつかみ方」 6 スイス人国際交流員を任用 本町のホストタウン事業推進のために、スイス人の国際交流員1名を新たに任用した。主な業務はホストタウンに係る情報収集や情報発信、翻訳業務、各種関連口座の企画・運営やスイスとの交渉など。 日時 平成29年7月24日から 配属先 生涯学習課生涯学習・スポーツ振興係		
成 果	・昨年に続き2回目となった「大山崎町スイスフェア」は、多数の来場者があり盛況裏に終えることができた。東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運の拡大に資することができた。 ・ホストタウン相手国スイスの文化（食・民族・音楽など）の理解が深められた。 ・事業を通じ大山崎町とスイスとの繋がりを住民の方々が身近に感じるきっかけとなった。		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジュニアスポーツ派遣事業」では、主にスポーツをしている児童が参加者の大半を占め、スポーツに対する関心や意欲を深めることができた。</li> </ul>
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体と連携を取りながら情報の共有化と事業全体像の早期構築を進めていく必要がある。</li> <li>・外国の料理を給食献立に取り入れることは、施設・設備や嗜好面などから忠実に再現することが難しい。</li> <li>・企画を実施するにあたり、講師謝礼の適正価格の見極めとスケジュールの調整が困難。</li> <li>・派遣事業における日程の確保や過密行程に係る参加者への配慮が困難。</li> <li>・スイスのフェンシングナショナルチームの事前合宿受け入れや、自治体間、住民間交流の具体化に向けた詰めの交渉、協議が必要。</li> </ul>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストタウンとして、ジュニアスポーツ選手の派遣、オリンピアン・パラリンピアンとの交流、あるいは相手国スイスの文化の紹介など、様々な取組をされており評価できる。ただ、派遣事業はスケジュールがタイトで距離的にも遠いので行き先を近くに変えられないか。</li> <li>・2020年のオリンピック・パラリンピックに向け2年目を迎える事業であり、積極的に様々な事業が展開されていることは素晴らしいことであるが、その後のこと、あるいはこの事業が本当に本町の将来にとって有益なかどうか、慎重に検討しながら事業を実施してほしい。</li> <li>・給食にスイスの料理が提供されるのは良い。ホストタウンへの関心を高める目的だから、忠実な再現は望まない。</li> <li>・フェンシングのホストタウンが他市にあれば情報交換等、連携されたい。</li> <li>・スイス国際交流員には更に活躍いただきたい。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標11】地域社会の教育力の向上</b> 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する。</p>																							
事務事業名	放課後児童クラブ運営事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																					
事業実績	<p>放課後児童クラブの開設（5クラブ） なかよしクラブ1・2、ともだちクラブ、でっかいクラブ1・2</p> <p>①小学校の児童数が減少する中、放課後児童クラブへの入会児童の割合は近年高い率で推移しており、本事業の社会的な役割は大きくなっている。</p> <p>②障がいのある児童についても、児童の状況を保護者と協議しながら、指導員の加配体制を整え、可能な限りの受け入れを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入会対象児童：町内在住の小学1年生～4年生（支援が必要な児童のうち、在籍実績がある児童については5、6年生も入会可）</li> <li>・平日（月～金）：下校時から午後6時</li> <li>・土曜日：午前8時30分から午後6時</li> <li>・長期休業日（夏季を含む。）及び振替休校日 ：午前8時30分から午後5時30分</li> </ul> <p><b>【平成30年3月末現在各クラブの在籍児童数】</b></p> <table> <tbody> <tr> <td>1) なかよしクラブ1</td> <td>・・・・・</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>2) " 2</td> <td>・・・・・</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>3) ともだちクラブ</td> <td>・・・・・</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>4) でっかいクラブ1</td> <td>・・・・・</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>5) " 2</td> <td>・・・・・</td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>計 193人</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>(前年211人)</td> </tr> </tbody> </table>			1) なかよしクラブ1	・・・・・	37人	2) " 2	・・・・・	54人	3) ともだちクラブ	・・・・・	26人	4) でっかいクラブ1	・・・・・	37人	5) " 2	・・・・・	39人			計 193人			(前年211人)
1) なかよしクラブ1	・・・・・	37人																						
2) " 2	・・・・・	54人																						
3) ともだちクラブ	・・・・・	26人																						
4) でっかいクラブ1	・・・・・	37人																						
5) " 2	・・・・・	39人																						
		計 193人																						
		(前年211人)																						
成 果	<p>年間を通じた保育計画に基づき、異年齢の集団生活を通じて入会児童の健やかな育成を図ることができた。また、でっかいクラブの移転に伴い、保護者に対しては、より児童の安心・安全な居場所として、家庭に代わる生活の場を提供することができるようになった。</p>																							
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大山崎町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」に沿った関係例規等の整備が必要となっている。</li> <li>・安全・安心な保育をより一層徹底するための事業内容の不断の見直しが求められる。</li> <li>・加配を要する児童を保育する加配指導員の配置は、放課後児童クラブ運営の大重要な要素だが、そういった児童の入会希望があった場合の加配指導員の早急な確保が困難である。</li> <li>・年度ごとの各クラブの児童数の増減が激しく、入会児童数の正確な予測が困難である。</li> </ul>																							

評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係例規等の整備は昨年度の課題もあるが、急ぐ必要はないのか。</li> <li>・放課後ときめきチャレンジ事業と時間が重複するため、児童の負担とならないよう十分な調整が必要である。</li> <li>・入会児童が増加傾向にあることからも、この事業の必要性が窺える。「保護者が安心して働く、児童も健全に育つ」ために必要な施設。遊びの要素と学習の要素をバランス良く配する保育が望まれることからも専門知識を備えた指導員の確保・養成が必要である。</li> <li>・危機管理・保育内容について指導者の研修も必要である。</li> <li>・今後は5年生・6年生も入会してくる可能性があり、施設も含めた総合的な計画が必要である。</li> <li>・児童が学校の人間関係を放課後児童クラブに持ち込んだり、逆にクラブの人間関係を学校に持ち込んだりがあるので、情報共有という意味でも学校との連携は必要である。</li> </ul>
---------	---

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標11】地域社会の教育力の向上</b> 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する。</p>		
事務事業名	放課後児童クラブ「でっかいクラブ」移転事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>道路を隔てた学校敷地に位置した第二大山崎小学校の放課後児童クラブ「でっかいクラブ」施設を、さまざまな危険リスクの解消、施設老朽化の解消、将来的な受け入れ人数拡大への対応といった課題を解消するために、学校校舎の余裕教室に必要な改修を加えて移転した。</p> <p>新施設での保育開始日：平成30年1月9日</p> <p>施設改修工事の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各室ならびに廊下の床改修</li> <li>○各室の窓ガラス交換</li> <li>○各室のコンセント増設</li> <li>○プレイルームへの空調設置</li> <li>○プレイルームの廊下との間仕切り壁撤去</li> <li>○指導員室／物置室の間の間仕切り壁設置</li> <li>○屋内照明改修、屋外照明設置</li> <li>○保育室へのシンク／IHコンロ設置</li> <li>○造り付け家具の改修</li> <li>○放送設備設置</li> <li>○消防設備設置</li> <li>○防火扉設置 ほか</li> </ul> <p>施設改修工事の期間：平成29年10月10日～同年12月31日</p>		
成 果	<p>これまで道路を隔てた学校敷地に施設があることで課題となってきた、さまざまな危険リスクの解消、施設老朽化の解消、将来的な受け入れ人数拡大への対応といった課題を大きく解消することができた。</p>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しくなった施設に児童も慣れ、新たな環境での生活も落ち着いてきたところではあるが、日々の保育の中で学校との調整を要する場面があるので、これまで以上に学校との連携を密にしていく必要がある。</li> <li>・移転後の保育活動の中で設備等で改善が必要な箇所を把握した場合は、整理し、今後の維持管理、修繕に活かしていきたい。</li> </ul>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校敷地内に施設を移転したことにより、様々なリスクから回避できるようになったことは喜ばしいことであるが、児童の意識の中では普段使用している学校施設と変化がないため、学校生活との意識の転換の工夫が必要ではないか。</li> <li>・移転に伴い、これまでの懸案課題が解消できて良かった。今後も他のクラブ共々経過を注視してほしい。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	公民館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	施設の貸出業務使用許可、施設の維持管理 一般使用団体は、2カ月前の1日から当日までに使用申請受付（サークル登録団体の使用申請は、3カ月前の20日から受付） <b>【使用申請後のキャンセル】</b> ・キャンセルは、使用予定日から7日前までは8割返金、それ以降は返金しない。 <b>【利用変更】使用申請後の変更</b> ・使用予定日の3カ月後の末日まで変更可能。ただし1回のみとする。 <b>【休館日】</b> 毎週月曜日、年末年始（12月28日から翌年の1月4日まで） <b>【開館時間】</b> 8時30分～21時30分まで（別館は21時まで）  <b>&lt;利用状況&gt;</b> 中央公民館開館日数 307日 中央公民館利用件数 2,908件 中央公民館施設利用率 31.6% 中央公民館利用者数 40,412人 1日当たり（平均） 131人		
成 果	利用者に固定化の傾向が見られるが、町民の身近な学習施設としての役割を果たしている。		
課題認識	ホール・談話室の利用制限に伴い、利用者が減少している。今後の施設更新の方策等を検討し、公民館施設のサークル活動や学習しやすい環境の整備を図る必要がある。 町民の多様な学習ニーズに対応する公民館の管理や運営について検討が必要である。		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館の改修工事が1日も早く実現することを望む。</li> <li>・ 町民の身近な学習施設であり、改修工事中の公民館利用ニーズに配慮が必要である。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	各種公民館講座事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
<各種公民館講座> 5月13日 芯体操の健康アップ講座 参加者：12名 講師：上林 かつ恵 氏 11月4日 おもひでシアター 参加者：30名 講師：濱口 十四郎 氏 他 11月18日 干支絵付け体験教室 参加者：21名 講師：田村 博文 氏 12月16日 銅版画体験教室 参加者：10名 講師：ハセガワ アキコ 氏 2月17日 型染め体験教室 参加者：13名 講師：井口 博 氏 3月24日 錫（すず）の細工体験教室 参加者：12名 講師：中元 司 氏			
<図書館事業> 4月22日 人形劇とブックフェアー (内容) 人形劇「ごうたと山んば」 参加者：88名 出演：ミニシアターまる 中島香織 氏 ※ブックフェアー…よく読まれている本や読み聞かせにお勧めの本（図書室から150冊）を紹介した。			
成 果	多くの町民の学習意欲・仲間づくりに応えるために必要な施策であり、効果をもたらしていると考える。より多くの町民に幅広い公民館講座をお手軽に受講してもらうべく事業の展開を行った。		
課題認識	新しい公民館講座の取組みも始めたが、受講生が少数の教室もあった。多様な学習機会の提供に向けた取り組みが必要であり、生涯学習の重要性をアピールし、更なる講座等の充実を図っていくためには、極力予算が掛からない方法を模索し実施していくが、その中でも必要な予算の確保も重要な課題である。		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修工事中も公民館活動を円滑に実施できるよう、必要な予算を確保しつつ多様な学習機会の提供に向けた検討をお願いしたい。</li> <li>幅広い年代の参加を促す事業は難しいにしても、学習参加可能な時に講座が用意されていることは有り難いはず。予算、講座内容、広報等を検討し、さらに講座事業が充実していくことを期待する。</li> <li>社会教育委員にも相談しながら、町民の学習ニーズの把握の仕方を検討してはどうか。</li> </ul>		

## 事務事業番号&lt;25&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標11】地域社会の教育力の向上</b> 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する。		
事務事業名	子ども体験教室事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<p>&lt;子ども体験事業&gt;</p> <p>7月27日・8月3日・10日 夏休み子ども陶芸教室 参加者：25名 講師：山崎 正裕 氏</p> <p>7月26日・8月2日 ジャグリング体験教室 参加者：22名 講師：末吉 正和 氏・佐々原 鉄宅 氏</p> <p>8月9日 身近な科学遊び教室 参加者：24名 講師・協力者：長岡京市環境の都づくり会議</p> <p>8月18日 夏休みトールペインティング教室 参加者：30名 講師：坂本 依真里 氏</p> <p>11月27日 電池手づくり教室 参加者：10名 講師：マクセル（株）東出裕子氏 他3名</p>		
成 果	子どもたちの好奇心をくすぐる各種体験事業を実施することで、自主性、協調性等をはじめ、多様な感動体験活動の場の提供ができた。		
課題認識	新しい教室を開拓し、実施することも重要ではあるが、現在実施している教室は大変人気があり、募集開始して直ぐに定員が埋まる状況です。このことから継続して実施することの大切さも考慮し、定員増及び効率的・効果的な教室を研究していく必要がある。		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども体験教室事業は、子ども達が初めて体験する企画がほとんどであり、興味を持って接することのできる良い機会であり、今後も継続して実施されたい。</li> <li>多くの参加者を見込める取組みにするには、日程、内容等、調整・検討が必要。地域や学校との連携で啓発することも必要である。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	文化のつどい事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月5日 町中央公民館で開催</li> <li>・大山崎町社会教育関係団体が一斉につどい、ジャンルを超えた連携・交流を深めながら日々の活動成果を発表するとともに、心のふれあいを深め、地域文化の振興を図った。</li> <li>・地元の小中学生による作品展示発表、一般住民作品展示、行政展示、PRコーナーなど。</li> </ul>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天王山「ゆひまつり」と同時に開催したため、立地的にも老若男女多くの参加があった。</li> <li>・児童・生徒の作品展示や社会教育団体等の日頃の活動の成果を発表する機会となった。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化のつどいを単独開催した場合の集客には課題がある。</li> <li>・社会教育団体等の活動の展示についても、会員の高齢化により、資材の搬入や会場当番等の役割分担が負担になっているとの声も年々大きくなっている。開催する場合は、多くの人が集えるような企画が必要である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化的なイベントを一体的に行うと、調整はご苦労されるが、活気は出る。単独開催の必要性がなければ、また、社会教育団体のニーズがあれば、今後も同時開催されると集客が見込まれる。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	公サ連まつり事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第17回公サ連まつり」は5月27日・28日 大山崎小学校で開催</li> </ul> <p>中央公民館を拠点に活動する文化サークルの会員らで組織する公民館サークル連絡協議会が主催し、舞台発表や作品展示など、サークル相互の親睦、連絡調整、情報交換や平素の練習成果の発表のため、毎年開催されてきた「公サ連まつり」である。</p> <p>今年度は公民館ホールが使用できないので、小学校体育館を利用し、発表の機会を持った。</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公サ連まつり」は、各サークルの普段の活動や練習の成果を発揮する場として、これまで実施してきた。しかし、前年の5月に本館ホールの使用を中止したため、昨年度開催されなかったが、今年度は開催されたことで大きく練習意欲につながった。</li> <li>主催者である公民館サークル連絡協議会の役員の間で、実施することで検討され、小学校体育館で発表の場を持つことになった。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校施設等を活用した開催方法については活動場所からの移動や備品等の借り入れに多くの時間・費用がかかった。</li> <li>備品等の移動・費用面で、今後公民館での公サ連まつりの開催を検討を深めていきたい。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習の発表の場があることは大切である。学び、学んだことを生かすことは生涯学習の基本であり、さらなる充実・発展を望む。</li> <li>文化サークルの発表の場である公民館ホールが閉鎖されているが場所を変えてでも発表された。ニーズを汲み取り、早期のハード面での整備が望まれる。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。</p>										
事務事業名	図書室運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)								
事業実績	<p><b>中央公民館図書室図書館運営事業</b></p> <p>①図書の貸出、返却、発注、受入、整理、保管義務 ②図書の貸出に伴う予約、リクエスト、調査・相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出者=町内に在住または在勤の者</li> <li>・冊数=1人6冊まで</li> <li>・貸出期間=2週間まで</li> </ul> <p>※本図書室は、京都府図書館総合目録ネットワークシステム「ケイ・リブネット」と提携</p> <p><b>【読みたい本が見つからないときは】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予約・リクエスト可能</li> <li>・当図書室に本がないときは他の図書館からの借用が可能</li> <li>・パソコンを利用して検索可能</li> </ul> <p><b>【開室日と時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火曜日～金曜日…貸出時間は午前10時～午後4時45分</li> <li>・土曜日、日曜日、祝日…貸出時間は午前10時～午後4時15分</li> </ul> <p>※休室日は、毎週月曜日、毎月最終木曜日、12月27日～1月4日、その他特別整理期間</p> <p><b>&lt;図書室開室状況&gt;</b></p> <table> <tr> <td>開室日数</td> <td>289日</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>36,516冊(一般書23,279冊児童書13,237冊)</td> </tr> <tr> <td>貸出者数</td> <td>18,818人</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>62,537冊</td> </tr> </table>			開室日数	289日	蔵書数	36,516冊(一般書23,279冊児童書13,237冊)	貸出者数	18,818人	貸出冊数	62,537冊
開室日数	289日										
蔵書数	36,516冊(一般書23,279冊児童書13,237冊)										
貸出者数	18,818人										
貸出冊数	62,537冊										
成 果	<p>利用者のニーズに合った開館状態、管理者・利用者共に利用しやすい図書館システムの運営、情報提供を速やかに行うための資料管理、読書活動の普及・推進のための事業の実施、公民館図書室の利用サービスの運営事務ができた。</p>										
課題認識	<p>京都府南部地域で小さな図書室の1つで、利用者は減少傾向にある。これは、全国的な傾向となっており、デジタル機器の普及による活字離れが主な要因と言われている。これに対し、今後どのように対応していくかが大きな課題である。</p>										
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府図書館総合目録ネットワークシステムとの提携により、図書室にない本も予約・リクエストすることにより利用できることは喜ばしいことである。</li> <li>・今後も利用者のニーズにあった事業の実施が望まれる。</li> <li>・図書館が建設されることが理想であるが、現状では公民館の改修計画の中で図書室が更に充実することを期待したい。</li> <li>・デジタル機器の普及による活字離れへの対応は、今後の大きな課題である。</li> <li>・学校図書館との連携も模索してほしい。</li> </ul>										



平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b></p> <p>誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。</p>		
事務事業名	体育館管理運営事業	担当部署	<p><b>生涯学習課</b> (生涯学習・スポーツ振興係)</p>
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は、改修工事に伴い8月から8ヶ月間全面閉館とした。</li> <li>京都国体（昭和63年）でフェンシング会場となり、それ以降大会を誘致するなどにより、フェンシング会場として全国的に名が知られている。</li> </ul>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は、大規模改修工事を行ったため、イレギュラーな利用となつたが、利用者は年々増加傾向にある。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>土日はほぼ空き時間帯がない状況であるが、平日の午後3時～同6時の時間帯に特に空きが多いため、当該時間帯の利用確保のための方策が必要である。</li> <li>体育館の第2駐車場が学校給食施設用地となるため、駐車スペース確保についての方策が求められる。</li> <li>今後の体育館運営体制については、指定管理の導入を見据えた検討が求められる。</li> </ul>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修工事により様々な問題に対応できる施設となつた。多額な工事費を費やしており、多くの町民に利用されるよう施策の検討が必要である。</li> <li>指定管理の導入を見据えた体育館運営体制の整備が急務である。</li> <li>駐車場の確保は必須である。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。				
	事務事業名	大山崎町体育館改修工事	担当部署 生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)		
避難所としての環境整備、スポーツの拠点施設としての機能向上をめざし、実施したおもな工事項目は以下のとおりである。					
事業実績	①エレベーター設置工事	体育館の北側・屋外階段横にエレベーター棟を新設。2階エントランス部分の出入り口には雨よけを備えた11人乗り。			
	②防水改修工事	雨漏りが生じていたことから、屋根全面の防水仕様を刷新。			
	③空調設置工事	大体育室に新設した空調設備は、GHP（ガスヒーポン）方式とし、設置場所も設備荷重に配慮し、天井部ではなく壁面に設置することとした。			
	④照明改修工事	全館照明のLED化による省電力化、長寿命化、適正な照度確保を図った。			
	⑤天井改修	大体育室は天井材の軽量化を図り、小体育室は天井材の補強により、それぞれ耐震化も実施。			
	⑥内装改修	ユニバーサルデザイン化改修として、1、2階男女のトイレを洋式化（1階トイレには和式トイレ1基存置）。ベビーシート、ベビーチェアも設置。1階男女更衣室は、車いす対応仕様として、建具やシャワーブースを改修。			
	⑦フロア改修	フロア改修については、大体育室、小体育室ともに表面を研磨のうえ、塗装を全面改修。			
	このほか、老朽化した音響設備については、避難所開設時も想定し、放送内容が聞き取りやすい音響効果が得られるよう、また大・小二つの体育室で同時に同じ内容の放送を行うことができるよう、機能向上を図った。				
	工期＝平成29年8月～平成30年3月 工事費用＝約4億9千万円				
	※財源／京都府広域的スポーツ施設充実支援事業補助金、スポーツ振興くじ助成金、緊急防災減債事業債及び一般財源				

成 果	<p>大山崎町体育館は昭和63年の国民体育大会の開催にあわせて昭和62年に竣工。約30年が経過し、老朽化に対する課題があった。</p> <p>今回の工事では、老朽化した施設への対策とあわせて、水害を除く発災時には、収容人数1,000人を想定する町内最大の避難所施設としての機能向上、そして体育館の本来機能である体育施設としての機能向上を目的に、各種補助金や交付金等の特定財源を有効に活用しながら、改修を実現できた。</p>
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調を新設したことによって大体育室も多方面での利用が考えられ、今後のスポーツ振興のみならず、地域振興に向けた活用方法を検討する必要がある。</li> <li>改修工事前には、改修時期を機会に施設の指定管理者制度への移行を検討したが、現在のところ未実施。引き続き、今後の運営方法について検討していきたい。</li> </ul>
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修工事が無事終了し、多方面での利用が可能になったことは喜ばしいことであり、利用者が増えることを期待する。</li> <li>災害の発生が多くなってきており、緊急時の対応について、訓練等により習熟しておく必要があるのではないか。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。</p>																		
事務事業名	大山崎町天王山カップ 少年少女フェンシング大会の開催	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																
事業実績	<p>平成29年度は町制施行50周年記念大会として第2回大会を開催。前年度会場であった町体育館が改修工事のため、大山崎中学校で2日間に渡っての開催となつたが、前年度大会以上の参加があり、大いに盛りあがつた。</p> <p><b>【大会概要】</b></p> <p>日時＝平成29年12月23日（土）・・・小学生の部 24日（日）・・・中学生の部 両日とも9時～18時</p> <p>会場＝大山崎中学校体育館</p> <p>競技種目＝フルーレ個人戦 ※以下のカテゴリ（学年区分、男女別）</p> <table border="0"> <tr> <td>小学生1・2年 男子の部</td> <td>=27人</td> <td>女子の部</td> <td>=15人</td> </tr> <tr> <td>小学生3・4年 男子の部</td> <td>=57人</td> <td>女子の部</td> <td>=35人</td> </tr> <tr> <td>小学生5・6年 男子の部</td> <td>=61人</td> <td>女子の部</td> <td>=37人</td> </tr> <tr> <td>中学生 男子の部</td> <td>=122人</td> <td>女子の部</td> <td>=86人</td> </tr> </table> <p>参加者合計＝444人（途中棄権あり）</p> <p>カテゴリ毎に1位～3位を表彰</p>			小学生1・2年 男子の部	=27人	女子の部	=15人	小学生3・4年 男子の部	=57人	女子の部	=35人	小学生5・6年 男子の部	=61人	女子の部	=37人	中学生 男子の部	=122人	女子の部	=86人
小学生1・2年 男子の部	=27人	女子の部	=15人																
小学生3・4年 男子の部	=57人	女子の部	=35人																
小学生5・6年 男子の部	=61人	女子の部	=37人																
中学生 男子の部	=122人	女子の部	=86人																
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修工事のため町体育館が会場として使えなかつたため大山崎中学校を会場とすることとなり、運営面で例年と異なることも生じたが、全国からの参加者が熱戦を繰り広げた。</li> <li>前年度よりも参加者数が増え、さらに海外からの参加もあったことから、本大会の知名度も上がりつつある。</li> </ul>																		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日の運営に関して、式典のシナリオや動き、運営スタッフの配置や統率等の準備に不十分な点があり、協力団体である京都フューチャーフェンシングクラブから不満の声を頂戴した。</li> <li>大会会場が例年と異なるとはいえ、試合案内等の放送が上手くいっていない部分があった。</li> <li>30年度からは会場が町体育館に戻り、例年通りの運営となるが、準備の段階から運営にかかる動き等を整理し、協力団体や運営スタッフとの意思統一を図る必要がある。</li> </ul>																		

評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"><li>・近年フェンシングも日本人選手の国際大会での活躍を通してメジャーなスポーツになりつつあり、参加者が増加していることは全国の少年少女フェンサーにとっては嬉しいことである。今後も関係者と協力して大会を盛り上げていただきたい。</li><li>・全国大会を催すことは多くの町職員の力が必要であることから、職員の過重な負担とならないよう計画されたい。</li><li>・ホストタウン事業の一環としても位置付く。会場もリニューアルした体育館開催になるが、運営の一定のマニュアル作りは必要である。</li></ul>
---------	--

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。</p>		
事務事業名	スポーツ振興事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>各種大会の開催を大山崎町体育協会へ委託し、実施している。 &lt;大山崎町体育協会事業&gt;</p> <p>7月2日 町民ソフトバレー大会 参加者 100名</p> <p>7月7日 ダブルス卓球大会 参加者 20名</p> <p>8月27日 町民ソフトボール大会 参加者 178名</p> <p>7月23日 家庭婦人バレー大会 参加者 40名</p> <p>10月9日 町制施行50周年記念第56回町民体育祭 参加者 約3,000名 町民グラウンドゴルフ大会 *台風のため中止</p> <p>11月23日 町スポーツ少年団交流大会 参加者 141名</p> <p>1月21日 体協ジョギング大会 参加者 55名</p> <p>◇京都府民総合体育大会への参加 10競技 参加者 111名</p> <p>◇町スポーツ少年団の育成 9単位団 登録者 236名</p>		
成 縦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町スポーツ振興の大黒柱である体育協会は、少ないスタッフであるにもかかわらず、町民体育祭をはじめ、ソフトバレー大会、ソフトボール大会、グラウンド・ゴルフ大会を地区対抗形式をとり毎年開催している。</li> <li>・体育協会加盟団体が自ら主催する各種大会も多数開催し、28年度から実施しているジョギング大会を実施では健康的に体を動かせることから町民の方から好評である。</li> <li>・町民にスポーツや運動する機会を提供し、町民の健康の保持・増進や地域の交流・親睦・絆の一助となっている。</li> </ul>		
課題認識	<p>町全体に少子高齢化が進み各種大会・イベントを開催しても参加者が緩やかではあるが減少してきている。今後は「する」スポーツの機会だけではなく、</p>		

	「見る」スポーツの分野の機会を提供していくことも必要と考える。
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>少ないスタッフで多くの大会を実施しておられる体育協会は、大山崎町スポーツ振興に大変貢献されているが、スタッフの過重な負担とならないよう考慮が必要ではないか。</li> <li>これらの事業は、大山崎町体育協会の協力を得て町民のスポーツ振興に大きな役割を果たしてきたが、少子高齢化により参加者が年々減少している。健康新命を延ばす上でも、今後は町民のニーズにあった企画を検討していく必要があるのではないか。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。</p>		
事務事業名	総合型地域スポーツ事業 (わくわくクラブおおやまざき)	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>&lt;わくわくクラブおおやまざきの事業&gt;</p> <p>①各種スポーツ教室 10種目教室 参加者 83名</p> <p>②春のハイキング（京都・嵐山方面） 参加者 26名</p> <p>③カヌー教室（京都府京丹波町和知） 参加者 27名</p> <p>④秋のバスツアー（丹後王国・食のみやこ） 参加者 40名</p> <p>⑤クリスマスイベント *大山崎町体育館改修工事のため実施せず</p> <p>⑥スキー・スノボ教室（スイス村・1泊2日） 参加者 34名</p> <p>⑦サタデーナイト（年間12回） 参加者 386名</p> <p>⑧ソフトボール大会 参加者 60名</p> <p>&lt;合計&gt; 参加者 656名</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町スポーツ少年団や大山崎中学校の部活動等にスポーツ教室の指導を依頼しているため、つながりが継続している部分が多くあり、とくに近年スポーツ教室をきっかけにその部活に入部するという事例も増えてきている。</li> <li>・イベントに関しては、安定した参加人数を確保できている。また参加者の多くがイベント等に協力的で、非常にスムーズにイベントを進行できている。</li> <li>・青年リーダー会「ゆうやけ」が中心となって実施した「ジュニア・リーダー養成講習会」では参加者が9名と昨年度と比較して増加し、事業内容に幅が増えた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフは増えたものの、今まで中心となっていた「ゆうやけ」スタッフの多くが社会人となり、スタッフの確保が難しい状態となっている。新たなスタッフの加入があるものの、スタッフ間の引き継ぎと人材発掘が必要になる。</li> <li>・町教育委員会との話し合いの場を多く持ち、連携を深めていくようにし、本団体の発展に繋げていく。</li> <li>・主な活動場所である町体育館の改修工事に伴い長期閉館したことにより、スポーツ教室の回数の減少や実施不可なイベントが生じたため、会員数が微減</li> </ul>		

	<p>となった。30年度以降の会員数、イベント参加人数の維持・増加への工夫が必要である。</p>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>町スポーツ少年団や大山崎中学校の部活動と連携してスポーツ教室が円滑に実施されていることは素晴らしい。</li> <li>参加者が減少することなく、事業が実施できていることはスタッフの努力によるところが大きく、今後も地域と連携しながら継続して実施されたい。</li> <li>スタッフの確保については、青年リーダー会に頼らず確保できるよう、スポーツ団体から人選する等、新たな施策が必要ではないか。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。																				
事務事業名	スポーツ団体育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																		
事業実績	町体育協会及び総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）加盟の団体に対する指導・助言を行っている。 ◇スポーツ団体（7団体） <table> <tr> <td>・バレーボール連絡協議会</td> <td>4チーム</td> <td>69名</td> </tr> <tr> <td>・バドミントン協会</td> <td>6チーム</td> <td>98名</td> </tr> <tr> <td>・ゲートボール協会</td> <td>1チーム</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>・グラウンド・ゴルフ協会</td> <td>1チーム</td> <td>59名</td> </tr> <tr> <td>・軟式野球連盟</td> <td>10チーム</td> <td>180名</td> </tr> <tr> <td>・ニュースポーツ協会</td> <td>1チーム</td> <td>33名</td> </tr> </table> ◇総合型地域スポーツクラブ ・わくわくクラブおおやまざき 92名 ◇スポーツ少年団 9単位団 236名			・バレーボール連絡協議会	4チーム	69名	・バドミントン協会	6チーム	98名	・ゲートボール協会	1チーム	10名	・グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	59名	・軟式野球連盟	10チーム	180名	・ニュースポーツ協会	1チーム	33名
・バレーボール連絡協議会	4チーム	69名																			
・バドミントン協会	6チーム	98名																			
・ゲートボール協会	1チーム	10名																			
・グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	59名																			
・軟式野球連盟	10チーム	180名																			
・ニュースポーツ協会	1チーム	33名																			
成 果	・加盟団体の若干の減少傾向は見受けられるが、それぞれの団体で活発に活動されている。 ・スポーツ団体については、府民総合体育大会市町村対抗競技への参加をはじめ、それぞれの団体主催の事業も多数開催されている。 ・総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）は、小学生や大人を対象とした各種スポーツ教室や、季節ごとにハイキングやカヌー教室等のイベントを開催し、一定の参加者数を得ており、また定員いっぱいになるほどの人気のイベントもある。 ・スポーツ少年団は、京都府内でもトップクラスの加入率であり、小さい町ではあるが、子どものスポーツ活動は盛んである。																				
課題認識	・加盟チーム数の減少傾向が見られる。加盟会員の高齢化が進みつつあり、また、少子化によるスポーツ少年団員の緩やかな減少傾向が見受けられる。 ・それぞれの団体を運営される方（代表者）や、技術指導者のさらなる資質の向上を研修会、講習会等に参加されることで求めたい。 ・それぞれの団体の活動場所・施設について、平成29年度には大山崎小学校のグラウンドナイター照明設備の改修工事を実施し、照度不足等を解消した。必要に応じて今後も施設整備を進めていく。																				
評価委員の 所見	・多くの団体が育成されている。スポーツ少年団も加入率が高い。健全なスポーツの在り方のためにも指導者・代表者の研修が行われると良い。 ・団体のモチベーションを下げないよう学校体育施設利用にかかる一定のルールの作成が求められる。 ・大山崎小学校の照明設備改修は良かった。																				

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ推進委員育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	スポーツ基本法に基づき委員を委嘱している。 スポーツ推進委員は、町体育協会事業への指導・助言や総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）への指導・助言を行っている。 また、近畿・府・乙訓のスポーツ推進委員研修会等への積極的な参加により個々の指導力の向上を図っている。		
成 果	スポーツ推進委員が大山崎町のスポーツ振興事業の企画・運営に携わることにより、町体育協会等が開催する各種大会、イベントがスムーズに運営できている。 イベント等の運営に携わることで、町民の地域の交流・親睦・絆の一助となっている。		
課題認識	これまでの欠員に加え、学校の先生への委員委嘱を行わないこととなり、前年度比4名減の6名体制で30年度を迎えることになった。30年6月時点で1名の新任委員を迎えることとなったものの、引き続き委員体制の補充は喫緊の課題である。 スポーツ推進委員の高齢化が進んでいるため、20代～30代の委員を登用し、若返りを図る必要がある。		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>町民のスポーツ振興に、スポーツ推進委員の役割は重要である。スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブへの助言のためにも、優れた人材の確保が望まれる。</li> <li>「スポーツを愛する人が多くいる大山崎町」のイメージがある。推進員の補充の手立て、道筋を一定ルール化できないか。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	各種スポーツ施設開放事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<施設別の利用件数／利用者数> ・桂川河川敷公園の開放 利用件数 131件 利用者数 6,026名 ・岩崎運動広場の開放 利用件数 133件 利用者数 772名 ・町内小中学校体育施設の開放 利用件数 1,029件 利用者数 26,355名		
成 果	桂川河川敷公園、岩崎運動広場、特に小中学校体育施設については、町民のスポーツ活動の中心的な役割を果たしている。 大山崎町体育館の大規模改修により、代替利用施設として各施設が役割を果たした。 大山崎小学校のナイター照明の不良箇所の再整備等、徐々にではあるが、施設整備を進めている。		
課題認識	・岩崎運動広場は年々コートの状態が悪化しており、応急措置としてのコートの苔除去清掃のみならず、改善を要する状態となっている。 ・河川敷公園は、ここ数年台風・大雨による冠水被害で利用できない期間があり、屋外種目開催に支障がある。実際に台風21号の影響で長期間施設の利用ができず利用者にご迷惑をおかけした。		
評価委員の所見	・町体育館、大山崎小学校のナイター照明など、改修工事が進み、利用しやすい施設となったことは喜ばしいことである。 ・岩崎運動広場の改修工事についても、早急に実施されることを望む。 ・体育館に続き、公民館と改修等が必要な事案があり、学校教育でも給食施設等が検討されている。組織体制として教育関係施設の担当係が独立して担う必要性を感じる。 ・安全なスポーツ振興に施設整備は欠かせない。今後も予算確保・人員確保を望む。		

平成29年度指導の重点における目標	<p><b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b>          天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。</p>		
事務事業名	歴史資料館運営事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<p>&lt;歴史資料館の運営、活動&gt;          年間入館者総数（開館日数 294日）          8,001名          図録等販売実績          454,560円</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、大山崎町歴史資料館は堺市立さかい利晶の杜と連携し、入館者割引などの特典を行なっている。両方の自治体は、ともに茶人千利休と関わりがあるため、彼をめぐる人的交流に関わる企画展を行なった。企画展示図録「千利休とその周辺」でまとめた。</li> <li>歴史街道推進協議会「西国街道部会」などを通じて、西国街道沿道の自治体立の博物館施設との連携を実施することができた。29年度リレートーク「古代のみちと遺跡を語る」を高槻市立今城塚古代歴史館で実施した。それを通じて、各々の施設や活動をPRすることができ、阪神間の人々に当館を周知させていく絶好の機会となった。</li> <li>地元小学校における地域学習においても資料館が積極的に使用された。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>入館者数は、前年度から微増した。</li> <li>図録等の販売数も増加した。やはり、団体入館者に対して、じっくりと時間をかけて見学していただく工夫が必要である。その上で関心を喚起し、図録等の販売につなげたい。</li> <li>歴史街道推進協議会のイベントでは、初めて古代をテーマに扱ったため、埋蔵文化財担当者も報告され、内容に幅ができた。西国街道は、さまざまなテーマ設定ができる場であることを再認識した。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史資料館を通じて自治体立の博物館施設等と連携しグローバルな視点で事業が実施されていることは非常に評価できる。今後もこの取り組みを通じて大山崎の歴史を広く発信されたい。</li> <li>地元小学校における地域学習に資料館が使用されることには意義なことであり、今後も地元小学生の学習意欲向上に貢献されたい。</li> <li>歴史街道推進協議会のイベントが、「古代」で埋蔵文化財担当とのコラボであったことは評価できる。今後も「保存と活用」の観点から幅を持たせて実施されたい。</li> <li>町が歴史資料館を運営していることは誇れる。</li> </ul>		

平成29年度指導の重点における目標	<p><b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b>          天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。</p>		
事務事業名	各種企画展等事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<p>&lt;各種企画展の開催・調査活動&gt;</p> <p>5月2日～21日 『蘭花譜』と大山崎（小企画展）          参加者 839名</p> <p>8月8日～27日 第19回平和のいしづえ展（小企画展）          参加者 271名</p> <p>10月21日～11月26日 千利休とその周辺（第25回企画展） 参加者 1,394名</p> <p>平成30年2月24日～25日 加賀正太郎と洋蘭の栽培（小企画展）          参加者 236名</p> <p>平成30年3月6日～18日 禁門の変と十七烈士の顕彰（小企画展）          参加者 333名</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>文化財の燻蒸、館蔵古文書の目録作成</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展において、多くの入館者を得ることができた。</li> <li>本町を訪れた人に対して、館内および名所旧跡を案内する生涯学習ボランティアグループ（大山崎ふるさとガイドの会）が、企画展など、新たに修得された知識等を活用され、説明に幅ができた。</li> <li>重要文化財『離宮八幡宮文書』や土佐家絵画資料、堺環濠都市遺跡出土遺物などを展示し、利休やその周辺の活動の広がりを紹介した。また、ふるさとセンター1階で、政策総務課が行なう町制50周年事業である模型待庵の設置と、関連づけた。</li> <li>寄贈いただいた地元の文化財の目録を作成した。新出史料などを、小企画展において、展示・公開することができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>大山崎町は、9世紀の火舎・釜が出土し、14世紀以降は天王山中腹に茶園が広がるなど、もともと茶とは深い関わりを持っていた。また、大山崎の妙喜庵も16世紀中葉、堺の茶人とも積極的に交流していた。天正10年に羽柴（豊臣）秀吉が山崎城を構築すると、千利休も当地に屋敷を構えた。この時、待庵も構築されたと思われる。茶人を通して、お茶の文化の交流が明確になった。</li> <li>今回の展示では、千利休に関する諸資料を展示することができた。また、堺環濠都市遺跡の豊富な考古遺物から、同時代資料の茶道具を取り扱った。一般の方々の興味関心が高いことを改めて再認識させられた。</li> <li>資料借用では、堺市博物館に、また現地見学会ではさかい利晶の杜の協力を得た。昨年に引き続き、大阪府側の自治体との交流の重要性を実感した。</li> <li>当該事業の展開で、幅広い年代に大山崎町の歴史についての学習や体験活動</li> </ul>		

	<p>を通して、大山崎町の歴史や文化の理解を更に広げることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小企画展では、地元の近世・近代資料を調査し、目録作成を通じて、展示に活用した。平和のいしづえ展では町制50周年という観点から「戦後のあゆみ」をテーマとした。今後も戦後を展示対象としていきたい。</li> </ul>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、大山崎に関わる様々なテーマをピックアップし数度の企画展を実施されていることは、素晴らしい。今後も同様に企画展を計画実施し、紹介を続けてほしい。</li> <li>・類似点のある堺市やその他の大阪府側の自治体との交流を通じ、大山崎町の歴史や文化の理解をさらに深められ、広く町民に紹介されたい。</li> <li>・企画展に集客が多いのは工夫をされたからだと想像する。「ふるさとガイドの会」の活用も他地域の方からも評価されている。企画展だけではなく、常設展も希望者に分かりやすい説明付き（対話式）だとより入館者が楽しめる。</li> <li>・町政50周年事業と関連付けた企画展があったが、国の方で公立博物館についてまち作り行政、地域活性化、観光等で首長部局運営のような方向も示されようとしている。ただ、生涯学習、教育という観点も忘れず、独自性を持つての運営も希望する。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b></p> <p>天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。</p>		
事務事業名	講座・講演会事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
<p>◇講座・講演会等</p> <p>11月12日・11月18日 お茶室の戦国史（全2回） 参加者 計 123名</p> <p>9月9日 西国街道リレートーク「古代の道と遺跡を語る」 参加者 計 160名</p> <p>10月27日 ふるさとガイドのための講習会 参加者 計 35名</p> <p>11月25日 西国街道リレーウォーク 「古代山陽道と大山崎の遺跡を歩く」（歴史街道推進協議会関連事業） 参加者 計 27名</p> <p>11月11日 「千利休の堺屋敷跡を探る」 11月23日 「豊臣政権のなかの千利休」 参加者 計 160名</p> <p>11月19日 千利休の遺跡を歩く（現地説明会） 参加者 37名</p> <p>3月10日 地元に残る禁門の変の史料（古文書講座） 参加者 計 31名</p> <p>◇普及啓発事業（文化を未来に伝える次世代育み事業）</p> <p>6月10日・17日 「お抹茶をつくってみよう！」（子ども歴史クラブ教室） 参加者 計 17名</p> <p>7月27日・28日 「お茶にあう、和菓子をつくろう！」 (夏休み子ども歴史教室) 参加者 計 35名</p> <p>3月20日～4月15日 第16回地域学習展示交流会 参加者 763名</p> <p>◇調査活動</p> <p>小泉氏旧蔵資料等の整理、展示</p>			
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展で学んだ内容を、現地の史跡や文化財とつなげて理解する実践を行なった。学習機会の提供とともに、大阪府自治体との関わりを考える視角を提供した。これによって幅広い視野から大山崎町に対する愛着心が育くまれた。</li> <li>他市町村の活動や研究成果を考えることで、大山崎町の歴史や文化をより客観的に見据えることが出来るようになった。さらに西国街道や古代の歴史を扱うことで、広域連携を行なうことにつながった。</li> <li>連続講演会では、戦国期のお茶室を取り上げ、千利休が待庵を築いたと言わ</li> </ul>		

	<p>れている天正10年(1582)頃が大きな転機となったことを取り扱った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生対象の各事業の実施により、幅広い年代層に対して、地域の歴史・文化を学んでもらう場となっている。特に、毎年相違するテーマを選びつつ、郷土の資料や文学資料を学習することで、地元大山崎町への愛着心が育まれることにつながっている。</li> <li>・小中学生がボランティアグループと接するなかで、幅広い年代の方々との交流が生まれている。</li> <li>・ボランティアグループにおいても、小中学生の習熟度に応じた対処・取組が可能となり、その指導者育成につながっている。講習会などを順次実施していくことで、これを、再生産、補強している。</li> <li>・文化財の調査や、その保管する環境調査を行うことによって、新しく確認された地元資料を保存し、これを後代に伝え、展示・公開をさらに進めることができる。また、企画展・小企画展にも活用できた。</li> </ul>
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎は淀川や西国街道で他地域とつながっており、共通のテーマとなる歴史や文化で結ばれている場合が多い。こうした部分をさらに掘り起こし、他自治体の博物館施設とさらなる広域連携を進めることが課題である。</li> <li>・小中学生に関心を高めるテーマを、さらに追求していく必要がある。これには、子どもたちの習熟度に応じた説明や理解の促進を実施することが肝要である。これについては、講習会を実施して対応をした。</li> <li>・寄贈を受けた古文書等を調査し、その目録を作成することが必要である。さらに、それを契機に公開・活用していくことをさらに進めるべきである。小企画展などで実践したが、今後もさらにこれを推進していく必要がある。</li> </ul>
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種啓発事業を開催することにより、大山崎町の歴史や文化をより深く説明し紹介していくことは意義のあることである。今後は他の地域との広域連携も視野にさらなる啓発事業が実施されることを期待する。</li> <li>・大人、子ども向けのたくさんの企画が行われており、結果、ふるさと大山崎への愛着(誇り)が育まれたことは評価できる。観光との連携や小中学校の歴史学習・総合的な学習の時間として教育課程に組み込む、出前授業等さらなる充実が望まれる。さらには、こうした教育課程に合わせた企画(ニーズ調査しても良い)や文化財との連携で考古学資料の展示等は如何か。</li> <li>・普及啓発事業も(地域学習展示交流会等)、地域総掛かりで子どもを育てる観点からも応援したい。</li> <li>・「〇〇コース」のような、所要時間の目安と共に町内の歴史を巡るガイドブックを(学年発達段階に合わせ)何コースか作成し、小中学校等に配布し、学習で活用してもらうことを検討できないか。</li> </ul>

平成29年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b></p> <p>天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。</p>		
事務事業名	埋蔵文化財発掘調査・国庫補助事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第77次遺跡確認調査（白味才遺跡・大山崎瓦窯跡の範囲確認調査） 調査対象面積 83.7 m<sup>2</sup> 平成29年4月3日～平成30年3月31日 国庫補助事業</li> <li>・第77次遺跡確認調査の現地説明会を開催した。 平成29年6月17日</li> <li>・長岡京跡第1151次調査、長岡京跡第1153次調査を所収した『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第52集（原因者）、第77次遺跡確認調査を所収した『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第53集（国庫補助事業）を刊行した。</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助事業では、白味才遺跡・大山崎瓦窯跡の範囲確認調査を実施し、発掘調査報告書を刊行した。調査成果としては、大規模な廃棄土坑を検出し、大山崎瓦窯の分布範囲が確定した。</li> <li>・第77次遺跡確認調査の現地説明会では、参加者数約150名であった。</li> <li>・開発に伴う発掘調査事業は、原因者分として平成29年度に実施した発掘調査の報告書を刊行した。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に伴う発掘調査事業、国庫補助事業の各事業において、調査面積や期間、記録保護等を適切に実施することが重要である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎瓦窯跡の範囲確認調査により分布範囲が確定したことは、同調査の成果であり、今後の整備計画にとっても重要なことである。</li> <li>・今後も国庫補助を受けながら、埋蔵文化財発掘調査を継続されたい。</li> <li>・開発に伴う発掘調査は、宅地開発等における不定期で予定の立たない事業であるが、貴重な遺構の調査であり、記録、保存に万全を期していただきたい。</li> </ul>		

平成29年度指導の重点における目標	<p><b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b></p> <p>天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。</p>		
事務事業名	史跡整備事業（史跡大山崎瓦窯跡）	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存整備工事 平成29年4月3日～平成30年3月31日 史跡整備事業</li> <li>・第75次遺跡確認調査 平成29年4月3日～平成30年3月31日 史跡整備事業 調査対象面積 74m<sup>2</sup></li> <li>・第1回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 平成29年11月29日</li> <li>・第2回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 平成30年2月23日</li> <li>・第3回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 平成30年3月28日</li> </ul>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡整備事業では、保存整備工事を行った。</li> <li>・第75次遺跡確認調査では、史跡指定地における窯の配置の全容がほぼ解明され、規模・規格・構造についても詳細を把握することができた。</li> <li>・史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会では、平成30年度以降に実施する実施設計等について、協議した。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡大山崎瓦窯跡の史跡整備に向け、整備委員会の意見を聴取しながら、京都府関係部局とも連携し取り組む必要がある。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡指定地における窯の配置・規模・企画・構造など全容がほぼ解明したことにより、整備事業も具体化されるものと思われるが、後世に伝える貴重な史跡であり、どのように整備するのか十分な検討を行われたい。</li> <li>・平成30年度以降の実施設計等の協議が行われ、整備の取りかかりができた。今後の整備の見通しが示されることを希望する。</li> </ul>		

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	埋蔵文化財等普及啓発事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎中学校職場体験学習（中学校2年生）の受入 11月8日～11月9日</li> <li>・ミニシンポジウム「大山崎瓦窯と平安京造営」 10月29日 参加者 約30名</li> <li>・文化のつどい 11月5日 IK77次調査・史跡大山崎瓦窯跡のポスター展示</li> <li>・埋蔵文化財仮移動事業 平成29年11月13日～12月8日</li> <li>・スライドでみるおとくにの発掘 3月4日 参加者 約90名</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の中でも歴史に興味を持つ方は多いことから、発掘調査において成果があった場合、町のPRを含めて報告することは効果的であると考える。</li> <li>・中学生による職場体験学習では、埋蔵文化財の整理作業体験を通して望ましい社会性や職業観を身に付けてもらうには良い機会である。</li> <li>・収蔵庫解体に伴い埋蔵文化財仮移動を完了した。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳など、文化遺産の広報普及とそれを生かしたまちづくり構想が求められている。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験の中で、埋蔵文化財の整理作業を中学生自身が体験することは、さらに大山崎の歴史に興味を持つことになり、非常に有意義である。</li> <li>・大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳の発掘調査の成果について、史跡整備事業との関連も持たせ、より多くの町民が認識できるよう、広報に工夫をされたい。</li> <li>・小中学校の社会科の時間に発掘担当者による出前授業を検討されては如何か。</li> <li>・発掘等が繁雑な中、啓発・普及については歴史資料館との連携が必要ではないか。</li> <li>・「保存と活用」の観点で啓発をも考えた収蔵庫建設を望む。</li> </ul>		

## 事務事業番号&lt;43&gt;

(平成29年度事業)

平成29年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	文化事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会（乙訓文化芸術祭） 6月4日 主催 乙訓文化芸術祭実行委員会・乙訓地方中学校校長会 会場 長岡京記念文化会館  民俗芸能鑑賞会「千本ゑんま堂大念佛狂言」 解説・実演 11月26日 主催 大山崎町教育委員会・大山崎町文化協会 会場 大山崎中学校体育館		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>乙訓文化芸術祭は、大山崎町・長岡京市・向日市内の中学校8校の吹奏楽部が集い、日頃の練習の成果を発揮する良い機会となっている。</li> <li>当該事業は毎年好評で、観客数は約1,000名である。こうした大勢の観客を目の前にして演奏する生徒たちは、緊張や失敗、仲間とやり遂げた達成感や充実感等を体感することとなる。よって、「大舞台で、どれだけ自身のパフォーマンスが発揮できるか。」を試すには、絶好の機会である。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>民俗芸能鑑賞会では、約160名の住民が身近な場所で、普段触れることの無い京都市登録無形民俗文化財を鑑賞した。</li> <li>解説や公演により民俗文化財の理解が深められ、伝承してきた歴史の重みが伝えられた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸能・芸術は、人間生活にとって不可欠な要素の一つである。</li> <li>多面的な角度から、各種のニーズに応えることが望まれる。</li> </ul>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>民俗芸能鑑賞会は、住民が身近な場所で文化芸術に触れられる良い機会となっている。今後も住民の文化芸術に接する機会として継続されたい。</li> <li>民俗芸能鑑賞会の広報は乙訓全域にされているのか。乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会のように二市一町の文化協会の相互乗り入れを構想できなか。</li> </ul>		